

生活論演習	前期 2 単位	1年
生活問題の検討を通して今後の研究方法を学ぶ		
<p>【担当教員】 石井 孝彦（いしい たかひこ）、奥村 健一（おくむら けんいち）、河見 誠（かわみ まこと）、鈴木 すゞ江（すずき すずえ）、廣田 道夫（ひろた みちお） ねらい：快適で人間性豊かな生活を思索し、現代社会の主体的な一員として学生ひとりひとりが問題意識を持ち、これから2年間の家政学科での学習と研究に積極的に取組めるようになることを目指します。さまざまな問題を詳細に検討しながら、文献検索、文献解読を学びます。輪読、ディスカッション、簡単なフィールドワークなどを通して、自分の意見を持ち、それを正確に他の人に伝えられるような表現力を持つことを期待します。この授業は、今後2年間にわたりいろいろな科目で課せられるレポート作成、小論文作成の基本を学ぶものです。最終的には2年次「家政学研究」の卒業論文作成のための導入部の役割も果たすものです。</p> <p>授業内容および進め方：上記担当者の専門分野は、石井<栄養学>、奥村<生活用具論>、河見<生命倫理>、鈴木<衣裳文化>、渡部<生活科学>です。1年生は6グループに分かれて、前半の6週は各グループが6名の担当者のクラスを1週ずつ回って受講します。後半の9週は、各グループがひとつのクラスで受講します。演習なので、丹念に下調べをして授業に備えてください。また積極的な発言をするように心掛けてください。</p> <p>テキストおよび参考文献：各担当者が授業中に指定、あるいは紹介します。</p> <p>評価方法：出席40% 授業への積極的な参加20% 小論文・レポート・小テスト40%</p>		

生活実験実習	通年 4 単位	1年
生活問題を理解するための実験と実習		
<p>【担当教員】 飯島 久美子（いじま くみこ）、石井 孝彦（いしい たかひこ）、奥村 健一（おくむら けんいち）、鈴木 すゞ江（すずき すずえ）、田中 京子（たなか きょうこ）、廣田 道夫（ひろた みちお） ねらい：多分野にわたる実験と実習を通して、実生活で体験するさまざまな現象を説明します。家政学科専門科目の授業内容を、より深く理解することに役立ててください。多種多様な実験と実習で学んだことを、実生活で実践し、自分自身のものにしてください。この科目は、2年次の「家政学研究」の導入部にもなっています。</p> <p>進め方：1年生は6グループに分かれます。前期は各グループが2週ずつ6つの実験室・実習室を回って学びます。後期は学生の希望をとり、それぞれ希望する実験室・実習室で15回学びます。いくつかのところに学生の希望が集中した場合は、第二希望に回ることもあります。</p> <p>評価方法：出席50% レポート・作品等の提出50%</p> <p>授業内容・テキスト・参考文献：各担当者の説明を参照してください。</p>		

生活実験実習		通年 4 単位	1年
食品学		飯島 久美子 (いいじま くみこ)	
ねらい	実験を通して、食品のもつ特質（栄養成分や味など）を知り、食品成分の反応性や加工特性、栄養特性の面から食品を理解する。それとともに品質評価や衛生的な側面も学び、これらから生活全般にわたる食品の関わりを理解できるようにする。		
授業計画	【前期】 第1回 食品の重量測定、水分定量実験 第2回 添加物の定性実験 第3回 食品の重量測定、水分定量実験 第4回 添加物の定性実験 第5回 食品の重量測定、水分定量実験 第6回 添加物の定性実験 第7回 食品の重量測定、水分定量実験 第8回 添加物の定性実験 第9回 食品の重量測定、水分定量実験 第10回 添加物の定性実験 第11回 食品の重量測定、水分定量実験 第12回 添加物の定性実験 第13回 食品の重量測定、水分定量実験 第14回 添加物の定性実験 第15回 後期実験実習への導入	【後期】 第1回 亜硝酸の定量 第2回 食品用洗剤の落ち方 第3回 味噌の顕微鏡観察 第4回 果汁のビタミンC定量 第5回 炭水化物の性質 第6回 タンパク質の性質 第7回 加工食品の食塩含量 第8回 油脂の劣化 第9回 ヨーグルト発酵 第10回 プラスチック容器よりの微量成分の溶出 第11回 微生物の検出1 第12回 微生物の検出2 第13回 肉の腐敗度の定量 第14回 タンパク質の定量実験その1 第15回 タンパク質の定量実験その2	
進め方	毎回実験室で実験を行います。始めにその日の内容の説明を行い、次いでテーマに沿って実験を進めます。数人でデータを出すこともあります。一人一人必ず実験を行います。休んだ人は別の日に実験します。レポートは次週提出ですが、返却後必ず読み返し、次週のレポートに反映させてください。		
テキスト	その都度プリントを配布します	参考文献	図書館受付にある生活実験実習の参考書リストが実験操作についての参考になります。
評価方法	出席:50% レポート:50%		

生活実験実習		通年 4 単位	1年
栄養学の理解のために		石井 孝彦 (いしい たかひこ)	
ねらい	尿検査、血液検査の実験を通して、身体の内部環境の恒常性を学ぶとともに、動物実験を通じて、食餌などの外部環境の違いが、身体及び内部環境にもたらす影響を学ぶ。 (前期は2週ずつ6実験室・実習室で行う。)		
授業計画	【前期】 第1回 糖の定性実験 第2回 清涼飲料水中の糖の定量 第3回 糖の定性実験 第4回 清涼飲料水中の糖の定量 第5回 糖の定性実験 第6回 清涼飲料水中の糖の定量 第7回 糖の定性実験 第8回 清涼飲料水中の糖の定量 第9回 糖の定性実験 第10回 清涼飲料水中の糖の定量 第11回 糖の定性実験 第12回 清涼飲料水中の糖の定量 第13回 糖の定性実験 第14回 清涼飲料水中の糖の定量 第15回 後期実験実習への導入	【後期】 第1回 栄養学実験の説明及び統計学の基礎 第2回 身体機能の測定 母集団の平均値の推定 第3回 運動と心肺機能 平均値の差の検定 第4回 尿検査・食塩の排泄量 第5回 腸内細菌検査 動物実験の説明 第6回 酵素実験 (唾液アミラーゼ) 第7回 血液検査 第8回 食品中の粗蛋白含量と食餌蛋白質の消化率 第9回 食品中の粗脂肪含量と食餌脂肪の消化率 第10回 動物実験 第11回 培養細胞による毒性試験 (動物実験代替法) 第12回 味覚試験 第13回 組織切片の顕微鏡観察 第14回 動物による栄養実験結果の説明 第15回 ロレンツォのオイル	
進め方	生物学的実験であるが、レポート作成の段階で、関連事項を調べるにより知識を確かなものとしてほしい。		
テキスト	特に定めず、配布資料を活用する。	参考文献	図書館カウンターにある2010年度指定参考図書目録を参照のこと。
評価方法	レポート:80% 出席点:10% 平常点 (実験手法):10%		

生活実験実習		通年 4 単位	1年
道具や視覚的効果のデザイン		奥村 健一（おくむら けんいち）	
ねらい	道具の基本的な役割や視覚的なデザインの効果は普段あまり意識されないが、日常生活行動はデザインの働きを前提にして成り立っていることがとても多い。身近なデザインの基本的な働きに目を向けていただくことがねらいである。目的や条件を満たすように立体や図形を形作りながら、構造の用い方と視覚的な効果について理解を深めていく。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 軽量で丈夫な構造を制作 第2回 非日常的な形を制作 第3回 軽量で丈夫な構造を制作 第4回 非日常的な形を制作 第5回 軽量で丈夫な構造を制作 第6回 非日常的な形を制作 第7回 軽量で丈夫な構造を制作 第8回 非日常的な形を制作 第9回 軽量で丈夫な構造を制作 第10回 非日常的な形を制作 第11回 軽量で丈夫な構造を制作 第12回 非日常的な形を制作 第13回 軽量で丈夫な構造を制作 第14回 非日常的な形を制作 第15回 後期実験実習への導入	<p>【後期】</p> 第1回 道具のデザイン 第2回 " 続き 第3回 " 続き 第4回 オブジェの制作 第5回 " 続き 第6回 " 続き 第7回 遊具のデザイン 第8回 " 続き 第9回 " 続き 第10回 " 続き 第11回 オブジェの制作の補足 第12回 作業空間または遊空間の構想デザイン 第13回 " 続き 第14回 実験的な視覚効果のデザイン 第15回 " 続き	
進め方	後期は一つの課題に2～4週間位の時間をかけて制作し、全ての課題を提出する。提出作品について簡単な講評を行う。		
テキスト	特になし	参考文献	特になし
評価方法	出席:30% 課題提出作品:70%		

生活実験実習		通年 4 単位	1年
衣裳文化 素材を理解してデザインする		鈴木 すゞ江（すずぎ すずえ）	
ねらい	「糸」「布」「紙」「粘土」等を用いて作品を仕上げながら、各素材の特質をよく理解し、その特質を生かして、どのような表現が可能であるかを学びます。生活造形の面白さを体験します。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 ステンシル① 紙作品 第2回 ステンシル② 布作品 第3回 ステンシル① 紙作品 第4回 ステンシル② 布作品 第5回 ステンシル① 紙作品 第6回 ステンシル② 布作品 第7回 ステンシル① 紙作品 第8回 ステンシル② 布作品 第9回 ステンシル① 紙作品 第10回 ステンシル② 布作品 第11回 ステンシル① 紙作品 第12回 ステンシル② 布作品 第13回 ステンシル① 紙作品 第14回 ステンシル② 布作品 第15回 まとめ	<p>【後期】</p> 第1回 和紙貼り絵① 第2回 和紙貼り絵② 第3回 粘土による立体造形① 第4回 小さいピンクッションを作る 第5回 パッチワーク① 第6回 パッチワーク② 第7回 粘土による立体造形② 第8回 粘土による立体造形③ 第9回 パッチワーク③ 第10回 粘土による立体造形④ 第11回 布、糸、綿、紐、ボタンなどを用いた自由作品① 第12回 布、糸、綿、紐、ボタンなどを用いた自由作品② 第13回 布、糸、綿、紐、ボタンなどを用いた自由作品③ 第14回 布、糸、綿、紐、ボタンなどを用いた自由作品④ 第15回 まとめ	
進め方	素材と向き合い、素直に、あるいは思い切って発想を転換させて、アイデアを生かした作品作りに取り組んでください。生活造形の制約を楽しみながら、「使う」場面を想像したモノ作りを学んでください。自分のイメージを大切にしたい、作品が、思い描くイメージにどこまで近付くことができるか、工夫を重ねてください。		
テキスト	特に定めません。	参考文献	授業中に随時紹介します。
評価方法	出席:50% 作品:50%		

生活実験実習		通年 4 単位	1年
家庭における食事を考える		田中 京子 (たなか きょうこ)	
ねらい	前期は、調理実習を通して家庭における食生活の現状と問題点について考える。後期は、日本料理、西洋料理、中国料理の実習を通して基本的な調理操作、調理操作とおいしさの関わりなどを理解する。また、日常使用する食品や調理器具の適切な取り扱い方、食卓作法などを習得し、自立した食生活を営むことができる力を養う。		
授業計画	【前期】 第1回 加工食品の利用を考える。(シチューの実習) 第2回 日本型食生活を考える。(飯と一汁二菜の実習) 第3回 加工食品の利用を考える。(シチューの実習) 第4回 日本型食生活を考える。(飯と一汁二菜の実習) 第5回 加工食品の利用を考える。(シチューの実習) 第6回 日本型食生活を考える。(飯と一汁二菜の実習) 第7回 加工食品の利用を考える。(シチューの実習) 第8回 日本型食生活を考える。(飯と一汁二菜の実習) 第9回 加工食品の利用を考える。(シチューの実習) 第10回 日本型食生活を考える。(飯と一汁二菜の実習) 第11回 加工食品の利用を考える。(シチューの実習) 第12回 日本型食生活を考える。(飯と一汁二菜の実習) 第13回 加工食品の利用を考える。(シチューの実習) 第14回 日本型食生活を考える。(飯と一汁二菜の実習) 第15回 後期生活実験実習への導入	【後期】 第1回 日本料理 (1) 第2回 西洋料理 (1) 第3回 中国料理 (1) 第4回 日本料理 (2) 第5回 西洋料理 (2) 第6回 中国料理 (2) 第7回 日本料理 (3) 第8回 西洋料理 (3) 第9回 中国料理 (3) 第10回 日本料理 (4) 正月料理 第11回 西洋料理 (4) クリスマス料理 第12回 中国料理 (4) パーティー料理 第13回 日本料理 (5) 第14回 西洋料理 (5) 第15回 中国料理 (5)	
進め方	授業の前半は、料理の作り方を実際に示しながら、食品の取り扱い方や調理操作のコツを説明する。後半は、講義の理解を深め、技術を身につけるために、少人数のグループに分かれて調理実習を行う。実習後に、試食と評価を行う。		
テキスト	テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配布する。	参考文献	山崎清子・島田キミエ・渋川祥子・下村道子共編『新版 調理と理論』同文書院
評価方法	出席:50% 実習ノート:50%		

生活実験実習		通年 4 単位	1年
生活の中の環境問題を考える		廣田 道夫 (ひろた みちお)	
ねらい	環境に関わる種々の事象について取り上げる。日頃何気なく捨てている飲み残しの飲料は環境にどのような影響を与えるのか。ミネラルウォーターの硬度とは。不燃廃棄物の仕分けの意味。リサイクルはどのように行われているのか等を実験・実習を通して調べ、生活に密着した様々な環境問題についての理解を深める。		
授業計画	【前期】 第1回 河川水の水質検査 (COD、窒素およびリン濃度の定量) 第2回 飲料水の水質検査 (水道水と天然水の硬度とpH測定) 第3回 河川水の水質検査 (COD、窒素およびリン濃度の定量) 第4回 飲料水の水質検査 (水道水と天然水の硬度とpH測定) 第5回 河川水の水質検査 (COD、窒素およびリン濃度の定量) 第6回 飲料水の水質検査 (水道水と天然水の硬度とpH測定) 第7回 河川水の水質検査 (COD、窒素およびリン濃度の定量) 第8回 飲料水の水質検査 (水道水と天然水の硬度とpH測定) 第9回 河川水の水質検査 (COD、窒素およびリン濃度の定量) 第10回 飲料水の水質検査 (水道水と天然水の硬度とpH測定) 第11回 河川水の水質検査 (COD、窒素およびリン濃度の定量) 第12回 飲料水の水質検査 (水道水と天然水の硬度とpH測定) 第13回 河川水の水質検査 (COD、窒素およびリン濃度の定量) 第14回 飲料水の水質検査 (水道水と天然水の硬度とpH測定) 第15回 後期生活実験実習への導入	【後期】 第1回 後期生活実験実習の総論とガイダンス 第2回 生活雑水による河川の汚染 (COD測定) 第3回 同上 (食品の汚濁負荷の測定) 第4回 酸性・アルカリ性とpH (pH指示薬と色の変化) 第5回 石鹼と合成洗剤 (石鹼と合成洗剤の合成) 第6回 同上 (蒸留水・石鹼水・合成洗剤の比較) 第7回 同上 (生物影響:発芽実験、蛍光増白剤の残留性) 第8回 同上 (洗濯排水に関するビデオ学習と調査) 第9回 地球環境問題に関するビデオ学習 (酸性雨) 第10回 プラスチックのリサイクル (物理的・化学的性質) 第11回 同上 (各種プラスチックの識別実験) 第12回 同上 (発砲スチロールのリサイクル) 第13回 同上 (PETのケミカルリサイクル) 第14回 同上 (ごみ処理に関するビデオ学習と調査) 第15回 地球環境問題に関するビデオ学習 (地球温暖化)	
進め方	前期:水質に関する実験を行い、河川の汚濁及び飲料水の硬度について考察する。2名1組みで2週間かけて実験を行う。後期:2名1組みで実験を行い、科学的特に化学的側面から環境問題を考える。各実験の初めにテーマの意義と実験の		
テキスト	毎回資料を配布する。	参考文献	実験項目に関連した参考書等をその都度紹介する。
評価方法	出席・実験態度:50% レポート内容:50%		

生活原論		前期 2 単位	2年
いのちの法と倫理		河見 誠 (かわみ まこと)	
ねらい	生活とは、「生命（いのち）」を「活かす」営みである。この授業では、人間らしく生命を活かすための基盤となるものは何であるかということを、各人が自分の問題として考えることを目的とする。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 インTRODクシヨ-生活と「いのち」を活かすこと 第2回 一 人工生殖 ・皆はベビーM事件をどう考える？ 第3回 ・代理出産の契約は認めるべき？ 第4回 ・法的規制という観点から考えてみよう 第5回 ・人工授精、体外受精の現在 第6回 ・結婚、出産の人格的意味 第7回 二 人間のクローニング ・皆はどこまで認める？ 第8回 ・人工生殖とクローニングの類似と相違 第9回 三 人工妊娠中絶 ・母体保護法は「ザル法」でいい？ 第10回 ・プロライフ、プロチョイス。その他には？ 第11回 ・選別中絶について考えてみよう 第12回 四 ガン告知、ホスピス、ケア ・告知すればそれでいい？ 第13回 ・ケアの関わりとは？ 第14回 五 「いのち」を活かすために「私」は何をすればいいか？ 第15回 試験		
進め方	「テーマ」を設定して全員が予め考えてくることを授業の基本とする。そして何度か、レポートを書いてもらうことがある。		
テキスト	葛生・河見・伊佐『新・いのちの法と倫理』（法律文化社）	参考文献	適宜、配布または指示する。
評価方法	筆記試験:80% 授業時のレポート:10% 出席態度:10%		

生活原論		後期 2 単位	2年
いのちの法と倫理		河見 誠 (かわみ まこと)	
ねらい	生活とは、「生命（いのち）」を「活かす」営みである。この授業では、人間らしく生命を活かすための基盤となるものは何であるかということを、各人が自分の問題として考えることを目的とする。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 インTRODクシヨ-生活と「いのち」を活かすこと 第2回 一 人工生殖 ・皆はベビーM事件をどう考える？ 第3回 ・代理出産の契約は認めるべき？ 第4回 ・法的規制という観点から考えてみよう 第5回 ・人工授精、体外受精の現在 第6回 ・結婚、出産の人格的意味 第7回 二 人間のクローニング ・皆はどこまで認める？ 第8回 ・人工生殖とクローニングの類似と相違 第9回 三 人工妊娠中絶 ・母体保護法は「ザル法」でいい？ 第10回 ・プロライフ、プロチョイス。その他には？ 第11回 ・選別中絶について考えてみよう 第12回 四 ガン告知、ホスピス、ケア ・告知すればそれでいい？ 第13回 ・ケアの関わりとは？ 第14回 五 「いのち」を活かすために「私」は何をすればいいか？ 第15回 試験		
進め方	「テーマ」を設定して全員が予め考えてくることを授業の基本とする。そして何度か、レポートを書いてもらうことがある。		
テキスト	葛生・河見・伊佐『新・いのちの法と倫理』（法律文化社）	参考文献	適宜、配布または指示する。
評価方法	筆記試験:80% 授業時のレポート:10% 出席態度:10%		

生活人間論		前期 2 単位	2年
エコエティカ (生圏倫理学)		橋本 典子 (はしもと のりこ)	
ねらい	生活人間論は未だ試みの学問であり、それは生、生活、生命、生きることの考察を通して人間存在を明らかにする学問である。人間の生の問題は、日常的で具体的なレベルから根源的な精神生活に至るまで様々であるが、授業では現代に於ける生を考察する。		
授業計画	【前期】 第1回 序論、生活人間論の定義 第2回 エコエティカの意味と現代的寄与 第3回 人間論の始まり、ソクラテースの魂の世話 第4回 理想主義者プラトーン、よく生きること 第5回 現実主義的考え方、アリストテレース 第6回 学問の体系と家政学(oikonomia) 第7回 徳の問題—勇気、忠、謙遜 第8回 行為の三段論法—アリストテレースと現代 第9回 人間の尊厳—ピコ、臓器移植の問題 第10回 人間学の始まり—カント、人格としての人間 第11回 哲学的人間学—環境と人間 第12回 進化論的人間観—『創造的進化』 第13回 閉じられたものと開かれたもの—実存と社会 第14回 死—ジャンケレヴィッチ『死』 第15回 技術連関の中でよく生きることとは		
進め方	講義形式で行う。必要に応じてレポートを課する。必要なプリントも配布する。 講義は必ず出席すること。		
テキスト	今道友信著『エコエティカ——生圏倫理学入門』 (講談社学術文庫)	参考文献	授業の際に紹介する。
評価方法	試験:60% 出席及び受講態度:30% レポート:10%		

生活人間論		後期 2 単位	2年
エコエティカ (生圏倫理学)		橋本 典子 (はしもと のりこ)	
ねらい	生活人間論は未だ試みの学問であり、それは生、生活、生命、生きることの考察を通して人間存在を明らかにする学問である。人間の生の問題は、日常的で具体的なレベルから根源的な精神生活に至るまで様々であるが、授業では現代に於ける生を考察する。		
授業計画	【後期】 第1回 序論、生活人間論の定義 第2回 エコエティカの意味と現代的寄与 第3回 人間論の始まり、ソクラテースの魂の世話 第4回 理想主義者プラトーン、よく生きること 第5回 現実主義的考え方、アリストテレース 第6回 学問の体系と家政学(oikonomia) 第7回 徳の問題—勇気、忠、謙遜 第8回 行為の三段論法—アリストテレースと現代 第9回 人間の尊厳—ピコ、臓器移植の問題 第10回 人間学の始まり—カント、人格としての人間 第11回 哲学的人間学—環境と人間 第12回 進化論的人間観—『創造的進化』 第13回 閉じられたものと開かれたもの—実存と社会 第14回 死—ジャンケレヴィッチ『死』 第15回 技術連関の中でよく生きることとは		
進め方	講義形式で行う。必要に応じてレポートを課する。必要なプリントも配布する。 講義は必ず出席すること。		
テキスト	今道友信著『エコエティカ——生圏倫理学入門』 (講談社学術文庫)	参考文献	授業の際に紹介する。
評価方法	試験:60% 出席及び受講態度:30% レポート:10%		

家政学研究	通年 4 単位	2年
卒業論文作成と卒業作品制作		
<p>【担当教員】</p> <p>福井 由実（ふくい ゆみ）、石井 大一郎（いしい だいいちろう）、石井 孝彦（いしい たかひこ）、茨木 裕子（いばらぎ ゆうこ）、奥村 健一（おくむら けんいち）、河見 誠（かわみ まこと）、鈴木 すゝ江（すずき すずえ）、田中 英資（たなか えいすけ）、谷本 信也（たにもと しんや）、永田 久雄（ながた ひさお）、濱田 陽子（はまだ ようこ）、平岡 佐智子（ひらおか さちこ）、廣田 道夫（ひろた みちお）、山田 岳晴（やまだ たけはる）</p> <p>ねらい：家政学科における学習と研究の総まとめです。興味のあるテーマをみつけて、論文あるいは作品を仕上げます。一年間かけてひとつのテーマに取り組むことで、研究能力が深まり、卒業後も生活問題についての意識を持ち続け、常に自分の考えを持ちながら生活する人であることを期待します。</p> <p>1年次の終わりに希望をとり、どのゼミに所属するのかを決定します。特定のゼミに希望者が多く集まった場合、第二希望以下のゼミに回ることもあります。各ゼミの内容説明は、1年次、後期最後の生活実験実習の時間に紹介がありますので、必ず参加してください。</p> <p>授業計画・進め方・テキスト・参考文献・評価方法：各ゼミの担当者の説明を参照してください。</p>		

家政学研究	通年 4 単位	2年
経営の現代的課題	福井 由実（ふくい ゆみ）	
ねらい	<p>本講義では、私たちがどんな製品やサービスを求めているのかといったマーケティングの基礎的な概念や、経営学の基本的な考え方を学ぶ。私たちの身のまわりで流行している具体的な商品や店舗を探し、あるいは自ら考え出すといった作業を通じ、経営学とは何かについて勉強していきたい。</p>	
授業計画	<p>【前期】</p> <p>第1回 経営学とは何か 第2回 日本的経営その1 第3回 日本的経営その2 第4回 日本的経営その3 第5回 アメリカ経営学 第6回 経営管理その1 第7回 経営管理その2 第8回 コーポレート・ガバナンス 第9回 顧客価値経営 第10回 リストラクチャリング 第11回 ポーターの競争戦略 第12回 ドラッカーの経営論 第13回 企業研究その1 第14回 企業研究その2 第15回 企業研究その3</p>	<p>【後期】</p> <p>第1回 経営戦略の意義 第2回 戦略の基本的概念 第3回 機能別戦略 第4回 商品戦略 第5回 情報戦略 第6回 在庫戦略 第7回 価格戦略 第8回 技術戦略 第9回 海外戦略 第10回 多角化経営 第11回 多角化戦略のメリット及びデメリット 第12回 参入障壁 第13回 市場の拡大と新製品開発 第14回 ブランドの構築 第15回 まとめ</p>
進め方	<p>毎回、学生にテーマに基づく報告をしてもらい、全員でディスカッションをしながら、経営学の基礎的な概念についての内容を深めていきたい。 後期は各自が決めた卒論テーマに基づき各自で報告をしてもらい、卒論作成を目指す。</p>	
テキスト	授業時に紹介する。	参考文献 授業時に紹介する。
評価方法	出席:10% 卒業論文:90%	

家政学研究		通年 4 単位	2年
家政学研究：ボランティア、介護、まちづくりをテーマに卒業論文を書き上げます。		石井 大一郎 (いしい だいいちろう)	
ねらい	本講義は、「ボランティア」「介護」「まちづくり」に興味を持つ学生を対象とします。「わたしの興味」をみんなで考え、テーマを設定します。そして論文の書き方を学び、実際に調査（インタビューなど）を行い、卒業論文を完成します。さまざまな人に会い、意見を聞き、そして自分で調べることで「わたしの問題意識」を高めていきましょう！		
授業計画	【前期】 第1回 ガイダンス 第2回 みんなで「わたしの興味」を深めるワークショップ 第3回 「わたしの興味」の発表とテーマの検討 第4回 論文の書き方（目次、構成、過去の論文の読み合わせ） 第5回 現場見学会1 第6回 現場見学会2 第7回 参考文献を探す方法 第8回 文献要約の発表1 第9回 文献要約の発表2 第10回 文献要約の発表3 第11回 「わたしのテーマ」と具体的内容を仮に決める 第12回 論文で参考にしたい2冊の文献を紹介する 第13回 目次づくりとこれからの調査計画の検討1 第14回 「わたしの論文計画」中間発表 第15回 調査の方法（インタビュー、データ活用など）を学ぶ	【後期】 第1回 夏の調査の報告 第2回 目次づくりとこれからの調査計画の検討2 第3回 論文指導1 第4回 論文指導2 第5回 論文指導3 第6回 テーマごとに分かれてここまでの成果を発表 第7回 論文指導4 第8回 論文指導5 第9回 論文指導6 第10回 「わたしの卒業論文」中間報告会 第11回 論文指導7 第12回 論文指導8 第13回 論文指導9 第14回 「わたしの卒業論文」発表会 第15回 論文の修正とわちあいワークショップ	
進め方	学生同士でそれぞれ持っている意見を共有するワークショップや、現場訪問、インタビューなど、実践的な経験をつみ、自らの問題意識を高めていきます。		
テキスト	特に定めず、配布資料等を活用します。	参考文献	講義開始後に適宜紹介します。
評価方法	出席:30% 各回の宿題や発表:30% 論文:40%		

家政学研究		通年 4 単位	2年
栄養学		石井 孝彦 (いしい たかひこ)	
ねらい	食品栄養、臨床栄養、公衆栄養の問題について、実験研究あるいは調査研究を行い、栄養学の理解を深める。		
授業計画	【前期】 第1回 レポート作成の10ステップの説明 最近の栄養話題1 第2回 栄養学研究テーマの題材選び1 最近の栄養話題2 第3回 栄養学研究テーマの題材選び2 最近の栄養話題3 第4回 探す手段の存在、図書館オリエンテーション（資料探し） 第5回 読む資料提出・検討（→再調査）、（資料を読む・要約） 第6回 読んだ資料の要約提出・グループ討論 第7回 読んだ資料の要約提出・グループ討論 第8回 文献入手・配布（情報カード作成） 第9回 文献要約提出（序論の一部）、スライド作成 第10回 プレゼンテーション1 第11回 プレゼンテーション2 第12回 プレゼンテーション3 第13回 テーマの決定、研究計画1 第14回 テーマの決定、研究計画2 第15回 テーマの決定、研究計画3	【後期】 第1回 研究計画 第2回 研究（実験・調査等）1 第3回 研究（実験・調査等）2 第4回 研究（実験・調査等）3 第5回 研究（実験・調査等）4 第6回 研究（実験・調査等）5 第7回 研究（実験・調査等）6 第8回 研究（実験・調査等）7、集計 第9回 研究（実験・調査等）8、集計 第10回 研究（実験・調査等）9、集計 第11回 研究（実験・調査等）10、集計 第12回 論文作成指導1 第13回 論文作成指導2 第14回 論文作成指導3 第15回 論文作成指導4	
進め方	研究テーマを相談のうえで決める。前期は、文献調査・発表を演習形式で行う。後期に実験、調査研究を行う。それらの結果をもとに論文を作成する。		
テキスト		参考文献	テーマ毎に検索
評価方法	出席点:20% 平常点:30% 論文:50%		

家政学研究		通年 4 単位	2年
洋装と和装の比較構成研究		茨木 裕子 (いばらぎ ゆうこ)	
ねらい	<p>我国の気候風土と文化に培われた伝統的和服と外来ではあるが現代に定着し日常化した洋服の2種を被服構成の視点から、1/2サイズスカートと浴衣の製作を通して比較研究する。既製服中心の画一的な衣生活を見直し、自身のスタイルが日本の伝統文化を取り入れた創造的で豊かなものになることを期待する。</p>		
授業計画	<p>【前期】</p> <p>第1回 洋装研究 (1/2スカートの説明)</p> <p>第2回 デザイン画</p> <p>第3回 型紙1</p> <p>第4回 型紙2</p> <p>第5回 製作1</p> <p>第6回 製作2</p> <p>第7回 製作3</p> <p>第8回 和装研究 (浴衣の説明)</p> <p>第9回 地直し</p> <p>第10回 柄合わせ</p> <p>第11回 裁ち離し</p> <p>第12回 身ごろしるしつけ</p> <p>第13回 背縫い</p> <p>第14回 くりこし</p> <p>第15回 肩当てつけ</p>	<p>【後期】</p> <p>第1回 脇縫い</p> <p>第2回 脇始末</p> <p>第3回 おくみしるしつけ</p> <p>第4回 おくみつけ</p> <p>第5回 おくみ始末</p> <p>第6回 裾始末</p> <p>第7回 襟先の始末</p> <p>第8回 衿作り</p> <p>第9回 衿付け</p> <p>第10回 衿始末</p> <p>第11回 袖作り</p> <p>第12回 袖付け</p> <p>第13回 袖始末</p> <p>第14回 仕上げ</p> <p>第15回 着付け</p>	
進め方	<p>計画表に沿って進める。毎回ファッションコーディネイト、予定、進行状況、修正、結果等を記録し、作品と共にレポートにして提出する。</p>		
テキスト	研究室作成のテキストを配布する。	参考文献	「おしゃれの視線」光野桃著 新潮文庫 (貸出)
評価方法	作品評価:60% 出席:30% レポート:10%		

家政学研究		通年 4 単位	2年
道具のデザインの考察と試作		奥村 健一 (おくむら けんいち)	
ねらい	<p>日常的な道具やシステムのデザインについて、ヒトの意識とモノのあり方を観察しながら形の試作や考察を行う。日常的な場面で基本的に大切なことは何か、興味深い、あるいは実現したいことは何かなどについて、試行錯誤も交えて探索していく。道具の働き、システムの使いやすさや問題点、また生活のさまざまなシーンや可能性について追求する。</p>		
授業計画	<p>【前期】</p> <p>第1回 ガイダンス：ヒト・モノ・コトの関係</p> <p>第2回 研究事例の紹介・共通課題の選択</p> <p>第3回 課題1：色彩・形態・空間の観察 視覚サンプルの制作</p> <p>第4回 課題1：色彩・形態・空間の観察 模型の制作</p> <p>第5回 課題1：観察結果の整理と講評</p> <p>第6回 課題2：生活観察 課題説明・各自が対象を選定</p> <p>第7回 課題2：生活観察 対象のようすを収集する</p> <p>第8回 課題2：生活観察 対象から問題点や可能性を見つける</p> <p>第9回 課題2：生活観察 見つけた事柄と考察のレポート制作</p> <p>第10回 課題2の講評と課題3の説明</p> <p>第11回 課題3：実験的なデザイン 制作開始</p> <p>第12回 課題3：実験的なデザイン 制作の続き</p> <p>第13回 課題3：実験的なデザイン 制作の続き</p> <p>第14回 課題3：実験的なデザイン 制作の続き</p> <p>第15回 課題3の講評と後期の各自のテーマの確認</p>	<p>【後期】</p> <p>第1回 展示会の見学</p> <p>第2回 展示会見学の印象を発表・レポート提出</p> <p>第3回 各自のテーマによる研究：テーマを再確認</p> <p>第4回 各自のテーマによる研究：スケジュールを立てる</p> <p>第5回 各自のテーマによる研究</p> <p>第6回 各自のテーマによる研究：方向とスケジュールの確認</p> <p>第7回 各自のテーマによる研究：資料収集または構想の確認</p> <p>第8回 各自のテーマによる研究</p> <p>第9回 研究の中間チェック：目標・方針・状況の確認</p> <p>第10回 各自のテーマによる研究</p> <p>第11回 各自のテーマによる研究</p> <p>第12回 各自のテーマによる研究：テーマと進行状況の確認</p> <p>第13回 各自のテーマによる研究</p> <p>第14回 研究の最終チェック</p> <p>第15回 研究発表と講評・展示の準備</p>	
進め方	<p>前期は共通課題を行い作品を提出する。前期の終わらないし後期からは各自のテーマに基づいて卒業研究を進めていく。観察や比較研究としてまとめていく方向か、あるいはスケッチ、作図、立体模型などの制作による試行錯誤を経てデザインとして提示する方向がある。教室で毎回途中経過を確認しながら必要に応じて教員が補助する。</p>		
テキスト	特になし	参考文献	特になし
評価方法	出席:20% 課題作品提出:20% 卒業研究提出:60%		

家政学研究		通年 4 単位	2年
生命倫理		河見 誠 (かわみ まこと)	
ねらい	このゼミに参加する人は、生命倫理の難問に各自がぶつかっていき、考える経験を重ねることを通して、それぞれが賢明な「生活者」（単なる消費者や群衆の一人ではなく）として、時代に流されることなく骨太に、かつしなやかに成長していく道を模索してほしい。		
授業計画	【前期】 第1回 イントロダクション 第2回 『病院で死ぬということ』をめぐる話し合い 1 第3回 " " 2 第4回 " " 3 第5回 " " 4 第6回 " " 5 第7回 「ケア」についての発表 1 第8回 " " 2 第9回 " " 3 第10回 " " 4 第11回 " " 5 第12回 安楽死事件を通して「いのちを支える」ことを話し合う 1 第13回 " " 2 第14回 " " 3 第15回 前期のまとめ	【後期】 第1回 卒業論文中間報告 第2回 卒論に関連するテーマを選んだ討論 1 第3回 " " 2 第4回 " " 3 第5回 " " 4 第6回 卒論に沿った報告と討論 1 第7回 " " 2 第8回 " " 3 第9回 " " 4 第10回 " " 5 第11回 " " 6 第12回 " " 7 第13回 " " 8 第14回 卒論仮提出とブリーフィング 第15回 卒論提出と一年のふりかえり	
進め方	授業は討論、話し合いが中心となる。予め、指示された課題（文献を読んでくる、報告を用意する、卒論を指示されたところまで書いてくる、など）を準備して授業に臨むこと。なお夏休みに、卒論の中間報告のためのゼミ合宿を行う可能性もある。		
テキスト	最初に、山崎章郎『病院で死ぬということ』（文春文庫）。他のテキストは随時指定する。	参考文献	
評価方法	卒業論文:75% 授業への参加姿勢:25%		

家政学研究		通年 4 単位	2年
衣裳文化 伝統と創造の研究		鈴木 すゞ江 (すずき すずえ)	
ねらい	衣裳文化にかかわる造形について深く考えてください。この分野で、伝統と創造はどのように交錯するのか、学んでください。「論文」あるいは「制作」のいずれの場合でも、一年間の丹念な研究作業を通して、ひとりひとりの個性とアイデアが十分に反映された成果を取得できますように。		
授業計画	【前期】 第1回 ガイダンス 第2回 共通制作① 第3回 共通制作② 第4回 共通制作③ 第5回 共通制作④ 第6回 個人別テーマ決定 第7回 個別指導 第8回 個別指導 第9回 個別指導 第10回 個別指導 第11回 個別指導 第12回 個別指導 第13回 個別指導 第14回 個別指導 第15回 中間発表会①	【後期】 第1回 中間発表会② 第2回 個別指導 第3回 個別指導 第4回 個別指導 第5回 個別指導 第6回 個別指導 第7回 個別指導 第8回 中間発表会③ 第9回 個別指導 第10回 個別指導 第11回 個別指導 第12回 個別指導 第13回 個別指導 第14回 卒展のためのリーフ作成 第15回 最終発表会	
進め方	布・糸・衣裳などにかかわりのある分野から自由にテーマを決定し、それぞれの研究をそれぞれのやり方で進めます。「論文」「制作」のいずれでも可。		
テキスト	特に定めません。	参考文献	授業時に随時紹介します。
評価方法	出席:30% 「論文」または「制作」:70%		

家政学研究		通年 4 単位	2年
グローバル化と現代日本の生活文化		田中 英資 (たなか えいすけ)	
ねらい	現代日本に生きる私たちの身近な生活文化の話題について、グローバル化の観点から調べて考察する。身の回りの生活実践のなかからグローバル化に関わる社会文化的な話題について議論し、必要に応じてテーマに関わりのある現場を訪問・観察する。履修者は、関心を持ったテーマをひとつ取り上げ、自分の力で1つの論文を完成させる。		
授業計画	【前期】 第1回 授業のガイダンス 第2回 グローバル化と生活文化概論 第3回 論文の書き方 第4回 テーマ探し① 第5回 テーマ探し② 第6回 テーマ探し③ 第7回 テーマ探し④ 第8回 現地調査①(予定) 第9回 現地調査①のまとめ 第10回 テーマ設定についての個別の発表と討論① 第11回 テーマ設定についての個別の発表と討論② 第12回 現地調査②(予定) 第13回 現地調査②のまとめ 第14回 卒業論文計画の発表① 第15回 卒業論文計画の発表②	【後期】 第1回 夏休みの経過報告 第2回 現地調査③(予定) 第3回 現地調査③のまとめ 第4回 現地調査④(予定) 第5回 現地調査④のまとめ 第6回 卒業論文中間報告① 第7回 卒業論文中間報告② 第8回 卒業論文中間報告③ 第9回 卒業論文中間報告④ 第10回 卒業論文中間報告⑤ 第11回 卒業論文中間報告⑥ 第12回 卒業論文中間報告⑦ 第13回 卒業論文中間報告⑧ 第14回 最終発表会① 第15回 最終発表会②	
進め方	まず、文献の購読を進め、各自の興味関心を確定し深めていく。後半は仲間同士で議論しながら卒業論文を書き上げる作業をすることとなる。適宜行う予定の学外調査にかかる交通費・見学費用は基本的に自己負担とする。		
テキスト	適宜プリントを用意し、配布する。図書を指定する場合は図書館で借りることのできるものを中心とする。	参考文献	学生各自のテーマに合わせて、随時授業中に紹介する。
評価方法	出席点:40% 卒業論文:60%		

家政学研究		通年 4 単位	2年
食品学		谷本 信也 (たにもと しんや)	
ねらい	生活の中で問題とされる食品関連事項の内からそれぞれの学生が自身の問題意識をもつ項目を選んで卒論テーマとし、1年間の計画を独自に立て、成果を論文にまとめ上げられるようにしたい。本学で学んだ全体をここに反映させるような内容としたい。		
授業計画	【前期】 第1回 卒論研究の進め方、論文作成方法の紹介 第2回 卒論テーマの選択1 第3回 卒論テーマの選択2 第4回 卒論実験1 第5回 卒論実験2 第6回 卒論実験3 第7回 卒論実験4 第8回 卒論実験5 第9回 卒論実験6 第10回 卒論実験7 第11回 卒論実験8 第12回 卒論実験9 第13回 卒論実験10 第14回 卒論実験11 第15回 卒論実験12	【後期】 第1回 卒論実験13 第2回 卒論実験14 第3回 卒論実験15 第4回 卒論実験16 第5回 卒論実験17 第6回 卒論実験18 第7回 卒論実験19 第8回 卒論実験20 第9回 卒論実験21 第10回 卒論実験22 第11回 卒論実験のまとめ、卒論のまとめ1 第12回 卒論実験のまとめ、卒論のまとめ2 第13回 卒論実験のまとめ、卒論のまとめ3 第14回 卒論実験のまとめ、卒論のまとめ4 第15回 卒論実験のまとめ、卒論のまとめ5	
進め方	一年間を通して一つのテーマについて研究を行い、一人で学べるようになることを目的にします。水曜1、2時限だけでなく、空いた時間を使って実験等進めるようにして下さい。		
テキスト	特にありません。各テーマごとに違うはずです。	参考文献	やはり各テーマごとに違います。相談しながら自身で探すことが必要です。
評価方法	出席:20% 授業への積極的な態度:30% 卒業論文:50%		

家政学研究		通年 4 単位	2年
人間工学		永田 久雄 (ながた ひさお)	
ねらい	生活者のQOL向上のための製品と生活環境づくりとは何かについて深く考えていただき、その上で、各自のテーマに沿って研究を進めます。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 人間工学の変遷と目的などについて解説 第2回 研究・調査・分析法 - 履物と歩行 第3回 研究・調査・分析法 - 駅での切符購入行動 第4回 研究・調査・分析法 - 商品ディスプレイ 第5回 研究・調査・分析法 - 介護動作 第6回 アンケート調査と分析法 (講義) 第7回 車椅子による移動の実地体験 第8回 実地体験を例にした簡単なプレゼンの実施 第9回 擬似体験シミュレーターのデザインのための調査・分析 第10回 擬似体験シミュレーターの製作 第11回 擬似体験シミュレーターによる体験実験 第12回 実地体験を例にして簡単なプレゼンの実施 第13回 興味あるテーマについて調査 第14回 興味あるテーマについて報告 第15回 テーマに関する希望理由と目標についてプレゼンの実施	<p>【後期】</p> 第1回 各グループあるいは各自ごとの研究課題の発表 第2回 各課題ごとに進める 第3回 各課題ごとに進める 第4回 各課題ごとに進める 第5回 各課題ごとに進める 第6回 各課題ごとに進める 第7回 各課題ごとに進める 第8回 各課題ごとに進める 第9回 各課題ごとに進める 第10回 調査結果のまとめ 第11回 論文の作成に関する解説と目次案の作成 第12回 考察、結論、参考資料のまとめ 第13回 論文の仮提出と手直し 第14回 プレゼン資料の作成 第15回 プレゼンの実施と論文の提出	
進め方	前期は全員で同じ課題に取り組み、基本的な研究・調査・分析、プレゼンの方法について学び、各自が関心のあるテーマについて調査し課題を絞り込みます。後期は各グループあるいは各自の希望研究課題について取り組み、研究論文を作成します。進捗状況に応じて、適宜、シラバスは修正、変更することがあります。		
テキスト	特になし。	参考文献	各グループ、各人ごとに適宜紹介する。
評価方法	報告・発言:20% プレゼン:20% 論文:60%		

家政学研究		通年 4 単位	2年
調理文化		濱田 陽子 (はまだ ようこ)	
ねらい	調理文化の視点から「食生活」に関する問題を取り扱い、「食」に対する知識をさらに深める。また、研究を進めていく過程で、事象の捉え方、問題解明の方法、論文のまとめ方、発表の仕方などを習得する。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 調理文化ゼミの概要 第2回 研究手法の理解 1 第3回 研究手法の理解 2 第4回 研究手法の理解 3 第5回 研究手法の理解 4 第6回 論文の読み方 1 第7回 論文の読み方 2 第8回 論文の読み方 3 第9回 論文の読み方 4 第10回 研究テーマの先行研究調査あるいは予備実験 第11回 研究テーマの先行研究調査あるいは予備実験 第12回 研究テーマの先行研究調査あるいは予備実験 第13回 研究テーマの先行研究調査あるいは予備実験 第14回 研究テーマの先行研究調査あるいは予備実験 第15回 前期のまとめと発表	<p>【後期】</p> 第1回 後期調理文化ゼミ研究計画の発表 第2回 各自のテーマに沿って研究を進める 第3回 各自のテーマに沿って研究を進める 第4回 各自のテーマに沿って研究を進める 第5回 各自のテーマに沿って研究を進める 第6回 各自のテーマに沿って研究を進める 第7回 各自のテーマに沿って研究を進める 第8回 各自のテーマに沿って研究を進める 第9回 各自のテーマに沿って研究を進める 第10回 各自のテーマに沿って研究を進める 第11回 各自のテーマに沿って研究を進める 第12回 論文仮提出 第13回 発表資料作成 第14回 発表資料作成 第15回 発表・論文提出	
進め方	前半は、さまざまな研究論文を読み、調理文化的な研究の進め方を理解する。研究テーマが決定したら、研究に関する文献を調査後、研究計画書を提出し、各自の研究テーマに沿って資料調査、実態調査、調理科学実験などを行い研究を進める。後半は、論文のまとめ方、書き方などを学ぶ。		
テキスト	学生各自のテーマに沿って適宜配布する。	参考文献	学生各自のテーマに沿って随時紹介する。
評価方法	論文:60% 提出物:20% 出席:20%		

家政学研究		通年 4 単位	2年
現代生活論		平岡 佐智子（ひらおか さちこ）	
ねらい	現代の生活を科学する際、一つの視角として個人と社会の関係を問うことから始めることができる。社会学的観点から近代という時代の社会を分析してきた延長線上で、「現代社会における生活」とはどのような特徴があり、現代人が直面している諸問題をどのように理解したらよいか社会学的な考察をすすめる。		
授業計画	【前期】 第1回 インTRODクxション 第2回 発表と討論 第3回 発表と討論 第4回 発表と討論 第5回 発表と討論 第6回 発表と討論 第7回 発表と討論 第8回 発表と討論 第9回 発表と討論 第10回 発表と討論 第11回 発表と討論 第12回 前期のまとめ 第13回 前期のまとめ 第14回 前期のまとめ 第15回 試験	【後期】 第1回 報告と討論 第2回 報告と討論 第3回 報告と討論 第4回 報告と討論 第5回 報告と討論 第6回 報告と討論 第7回 報告と討論 第8回 報告と討論 第9回 報告と討論 第10回 報告と討論 第11回 報告と討論 第12回 報告と討論 第13回 報告と討論 第14回 報告と討論 第15回 まとめ	
進め方	ゼミナール形式をとるが、以下のような方法を考えている。①一冊の本を全員が読んで、それをもとに議論する。②グループもしくは個人でテーマを決めて、文献・資料などを調べ、報告・討論する。③以上の学習の成果をまとめて、レポートを提出する。具体的には、開講時に、受講者の関心・希望などを聞いたうえで決めたい。		
テキスト	購入すべきテキストは開講時に指示する。必要に応じて、参考文献の抜き刷りや資料等も配布する。	参考文献	必要に応じて紹介する。
評価方法	出席:30% 学習態度:10% レポート:10% 定期試験:50%		

家政学研究		通年 4 単位	2年
人間活動と環境との関わり		廣田 道夫（ひろた みちお）	
ねらい	産業革命以後、特に20世紀後半から人間活動は際限なく拡大し、地球は人間活動に無限の可能性を与えるものではないという状況になってきています。我々は地球環境に配慮しながら生きていかななくてはならない時代になってきました。このような観点から地球環境を考え、勉強していきます。		
授業計画	【前期】 第1回 環境科学とは：講義のガイダンス 第2回 地球環境問題の解説 第3回 同上 第4回 同上 第5回 同上 第6回 地球環境問題に関する課題調査 第7回 同上 第8回 同上 第9回 同上 第10回 調査結果の発表 第11回 同上 第12回 同上 第13回 卒業研究のテーマの決定：個別指導 第14回 卒業研究のテーマの決定：個別指導 第15回 卒業研究のテーマの決定：個別指導	【後期】 第1回 卒業研究のテーマの個別指導 第2回 卒業研究のテーマの個別指導 第3回 卒業研究のテーマの個別指導 第4回 卒業研究のテーマの個別指導 第5回 卒業研究のテーマの個別指導 第6回 卒業研究報告の作成：報告の個別指導 第7回 卒業研究報告の作成：報告の個別指導 第8回 卒業研究報告の作成：報告の個別指導 第9回 卒業研究報告の作成：報告の個別指導 第10回 卒業研究報告のとりまとめ 第11回 卒業研究報告のとりまとめ 第12回 卒業研究報告会の準備 第13回 卒業研究報告会 第14回 卒業研究報告会 第15回 卒業研究報告の提出	
進め方	地球規模の環境問題について、広い視点から書かれた著作を勉強し、環境問題に関する理解を深め、その中で自分にとって関心の高い問題を見出し、卒業研究のテーマを絞り込む。研究成果を的確に報告することも重要であり、そのために報告会を行う。		
テキスト	適宜資料を配布する。	参考文献	テーマにより個別に紹介する。
評価方法	出席:40% 発表・論文作成:60%		

家政学研究		通年 4 単位	2年
住環境に関する研究		山田 岳晴（やまだ たけはる）	
ねらい	日本の文化の中で生活してきた住環境について研究し理解することによって、現代にその長所を生かすことを目的とする。建築〔住宅・民家・神社・寺院・城・近代建築〕やインテリア〔家具・台所〕、町並みや大工、デザインに関する文様や色彩などを各自テーマとし、文献、絵画、実物などを調査、収集、分析し、卒業論文・制作として研究をまと		
授業計画	<p>【前期】</p> <p>第1回 ガイダンス、住への興味発表、論文の進め方</p> <p>第2回 資料の調べ方、文様の基礎知識（日本の伝統文様）</p> <p>第3回 建築の基礎知識（日本建築の見方・建築の住環境）</p> <p>第4回 建築の基礎知識（建築の住環境）</p> <p>第5回 建築実測図の作成方法、建築実測図の作成</p> <p>第6回 発表（共通テーマ「文様」）、建築実測図の作成</p> <p>第7回 発表（共通テーマ「文様」）、建築実測図の作成</p> <p>第8回 発表（共通テーマ「文様」）、建築実測図の作成</p> <p>第9回 発表（共通テーマ「文様」）、建築図面の製図</p> <p>第10回 発表（共通テーマ「文様」）、建築図面の製図</p> <p>第11回 研究テーマ決定会（調査候補の発表）、建築図面の製図</p> <p>第12回 建築図面提出、卒業論文等の作成（候補資料の調査）</p> <p>第13回 中間報告会・発表1（調査候補資料の発表・提出）</p> <p>第14回 卒業論文等の作成（資料の調査）</p> <p>第15回 卒業論文等の作成（資料の調査）</p>	<p>【後期】</p> <p>第1回 卒業論文等の作成（資料の調査）</p> <p>第2回 中間報告会・発表2（調査した資料の発表・提出）</p> <p>第3回 卒業論文等の作成（資料の収集）</p> <p>第4回 卒業論文等の作成（資料の収集）</p> <p>第5回 中間報告会・発表3（資料の収集結果の発表・提出）</p> <p>第6回 卒業論文等の作成（資料の分析）</p> <p>第7回 卒業論文等の作成（資料の分析）</p> <p>第8回 中間報告会・発表4（資料の分析結果の発表・提出）</p> <p>第9回 卒業論文等の作成（まとめ）</p> <p>第10回 卒業論文等の作成（まとめ）</p> <p>第11回 卒業論文等の作成（まとめ）</p> <p>第12回 提出（卒業論文・卒業制作の提出）</p> <p>第13回 卒業論文等の補完</p> <p>第14回 最終発表会（卒業論文・卒業制作の発表）</p> <p>第15回 卒業論文集の作成</p>	
進め方	前期は、建築の基礎知識の習得、実測図の作成を行う。また、各グループで共通テーマ「文様」の収集、および各自の研究テーマ候補の資料収集、調査レポート提出を通じて、資料の収集方法を学ぶ。前期の後半に卒業論文・卒業制作の各自の研究テーマを決定する。後期は、各自の研究テーマにそって文献・絵画・実物などの資料を調査・分析しまと		
テキスト	特になし。	参考文献	特になし。
評価方法	卒業論文又は卒業制作:80% 授業姿勢・提出・出席:20%		

衣生活論		後期 2 単位	1・2年
衣生活を問う		鈴木 すゞ江（すずき すずえ） 山田 裕子（やまだ ひろこ）	
ねらい	第1回～8回は、日本特有の衣裳である「きもの」をとりあげ、江戸時代の小袖を中心に衣生活を考える。（鈴木） 第9回～15回は、「着ることと身体」を柱に講義を進め、衣服の選択や管理を、考えて行えるように知識を深めてもらいたい。（山田）		
授業計画	<p>【後期】</p> <p>第1回 辻が花</p> <p>第2回 小袖①</p> <p>第3回 小袖②</p> <p>第4回 小袖③</p> <p>第5回 俳句・川柳と衣作り</p> <p>第6回 江戸時代のデザイン①</p> <p>第7回 江戸時代のデザイン②</p> <p>第8回 衣の起源。衣とは。</p> <p>第9回 着心地とは。</p> <p>第10回 着衣による気候調節（衣服内気候、体温調節）</p> <p>第11回 着衣による気候調節（保温性、水分との関わり）</p> <p>第12回 動きやすさと衣服（衣による人体の拘束）</p> <p>第13回 動きやすさと衣服（衣服圧の身体への影響）</p> <p>第14回 衣服と皮膚</p> <p>第15回 試験</p>		
進め方	講義形式で進める。		
テキスト	特に定めない。必要に応じてプリントを配布する。	参考文献	授業時に随時紹介する。
評価方法	出席:30% レポート、試験:70%		

食生活論		前期 2 単位	1・2年
わが国の食生活・食文化の成立と展開―「人と食」のかかわりをテーマ別にさぐる		石川 尚子 (いしかわ なおこ)	
ねらい	食べることは生理的要求であり、人以外の動物にとっても必須の営みである。しかし、空腹感を満たし、栄養をとるだけでなく、人は長い年月をかけて文化としての食生活を築いてきた。本講義では特にわが国の食生活・食文化の成立と発展過程をテーマ別に取り上げ、その上で、今後の食生活のあり方を考える。		
授業計画	【前期】 第1回 本講義のガイダンス、食文化の領域 第2回 世界の食生活・食文化 第3回 日本の食文化、日本料理の成立と発展 第4回 異文化接触と受容(日本食文化の歴史) 第5回 主食の文化 第6回 副食の文化 第7回 油脂・調味料・香辛料 第8回 菓子・嗜好飲料 第9回 台所・食器・食卓 第10回 日常の食 第11回 非常の食 第12回 食の伝承と教育 第13回 外食文化の成立と発展 第14回 行事と地域の食文化 第15回 本講義のまとめ、食生活の現状と展望		
進め方	講義形式を中心とするが、質問形式、視聴覚教材、実物提示などの多様な学習形態を取入れる。毎回、質問や感想などを記入する小レポートを課す。		
テキスト	江原絢子、石川尚子編著『日本の食文化―その伝承と食の教育―』アイ・ケイコーポレーション、2009	参考文献	石川寛子編著『食生活と文化』弘学出版、初版1988
評価方法	出席点:30% 提出物:20% 筆記試験:50%		

住居学		前期 2 単位	1・2年
現代日本における家族と住居		松本 真澄 (まつもと ますみ)	
ねらい	生活の器である住居は、少子高齢社会へ向けて大きく変容していくと考えられる。そこで、現代の日本における住居をめぐる様々な問題を認識して、生活者の視点からこれからの住居を捉えるための基本的な知識と判断力を身につけることを目指す。		
授業計画	【前期】 第1回 住居学について 第2回 日本の住宅事情 第3回 住宅政策 第4回 統計からみる住宅 第5回 住宅関係費と家計 第6回 家族と世帯 第7回 住まいの変遷 第8回 住生活と間取り 第9回 高齢者と住環境 第10回 住情報と消費者問題 第11回 不動産としての住宅 第12回 都市計画と住まい 第13回 住まいの維持管理 第14回 集合住宅の管理 第15回 総括		
進め方	講義を中心に進め、授業中にミニレポートを随時課す。各自の積極的な参加を期待する。		
テキスト	特に定めず、配付資料等を活用する。	参考文献	授業時に随時紹介する。
評価方法	出席:20% 授業中課題:30% レポート:50%		

女性論		後期 2 単位	1・2年
女性の生き方とジェンダー		原 葉子 (はら ようこ)	
ねらい	私たちが女性として生きていく上で、社会的・文化的な性のありかたを指す「ジェンダー」の問題は避けて通ることができない。授業では、歴史的な経緯を踏まえながら「ジェンダー」についての基本的な知識を学び、私たちが日々の生活のなかで直面する具体的な問題について考えていく。		
授業計画	【後期】 第1回 概要説明 「ジェンダー」とは何か？ 第2回 歴史から見るジェンダー (1) ヨーロッパ近代① 第3回 歴史から見るジェンダー (2) ヨーロッパ近代② 第4回 歴史から見るジェンダー (3) 日本近代① 第5回 歴史から見るジェンダー (4) 日本近代② 第6回 ジェンダー役割 第7回 教育とジェンダー 第8回 現代家族のかたち 第9回 労働と再生産 (1) 第10回 労働と再生産 (2) 第11回 暴力とジェンダー 第12回 身体・医療とジェンダー 第13回 メディアとジェンダー 第14回 まとめ 第15回 試験		
進め方	授業は講義を中心とする。受講者には毎回リアクションペーパーの提出を求める。		
テキスト	なし	参考文献	各回のテーマに合わせ、講義の中で文献を紹介する。
評価方法	平常点:30% 期末試験:70%		

人間関係論		後期 2 単位	1・2年
現代日本社会とわたし		河見 誠 (かわみ まこと)	
ねらい	現代の日本（さらには世界）が抱える具体的な社会問題を取り上げる。その中で、わたしたちが日常よく耳にする人間関係の基本原則の意味、内容を明らかにしていく。それらの検討をもとにして、自分の問題として、どのように他者と関わればよいかを考えていく。		
授業計画	【後期】 第1回 一 自由—臓器移植と現代日本社会 1 第2回 " " 2 第3回 " " 3 第4回 二 福祉—家族問題から (夫婦別紙論議 1) 第5回 " (夫婦別氏論議 2) 第6回 " (現代の親子関係)/中間レポート提出 第7回 三 平等 —在日韓国・朝鮮人問題 1 第8回 " " 2 第9回 " —多元社会と共生 1 第10回 " —多元社会と共生 2 第11回 四 平和 —戦争、暴力、貧困 第12回 " —バングラデシュとNGO 1 第13回 " " 2 第14回 " —豊かさや貧しさについて考える 第15回 ふりかえり		
進め方	皆さんが主体的に考え、参加できる授業をしたい。具体的な質問を投げかけ、皆さんと一緒に考えを深めていくという形を取るつもりである。		
テキスト	河見誠『現代社会と法原理』（成文堂）	参考文献	福岡安則『在日韓国・朝鮮人』（中公新書）。中山研一『臓器移植と脳死』（成文堂新書）。そのほか、随時指示する。
評価方法	二本のレポート:80% 授業への参加姿勢:20%		

現代生活論		前期 2 単位	1・2年
社会変動のなかの現代生活		平岡 佐智子（ひらおか さちこ）	
ねらい	現代社会における生活のしくみやその特色を明らかにする。生活を営む個人や家族が普段に組み立てている諸活動を分析することから始まり、この生活の枠組みが変動する社会にあってどのように変化しているのか考察をすすめる。		
授業計画	【前期】 第1回 現代社会における生活のしくみ 第2回 生活の基礎的な単位—個人、世帯、家族 第3回 生活過程—生活費、生活時間、生活空間 第4回 生活手段—生産、労働／モノ、サービスの消費 第5回 （繰り返しの）生活習慣・（積み重ねの）生活歴 第6回 多様な生活様式—住まい、食生活、家庭生活 第7回 生活構造—生活の共同／役割の分担 第8回 生活体系—生活の内容／生活の外部条件 第9回 生活水準の向上—生活機会および再分配の公平 第10回 生活環境—持続可能な社会システム—生活圏 第11回 健康で文化的な生活を営む権利—生活権 第12回 生活保障—政府、自治体の生活支援政策 第13回 現代生活を再規定する社会保障制度 第14回 現代社会における「生活の質」の確保とは 第15回 生活意識—生活主体の自律性と社会的連帯		
進め方	講義中心となるけれども、短いレポート形式の課題提出の機会を適宜もうける。		
テキスト	特に指定しない。	参考文献	必要に応じて紹介する。
評価方法	出席:40% 定期試験:50% レポート:10%		

社会福祉論		前期 2 単位	1・2年
社会問題と社会福祉		永井 亮（ながい りょう）	
ねらい	現代日本社会は、複雑多様な社会問題を抱えている。この社会で「私たち全ての人々」が「自分らしく」生活していけるように、数々の社会問題に介入していくのが社会福祉制度・政策・援助技術である。学生が、社会問題を適切に理解し、社会福祉に関して深く考察できるようになることが、本講義の目的である。		
授業計画	【前期】 第1回 オリエンテーション 第2回 「社会福祉」とは何か 第3回 子どもと家族のための福祉①（児童虐待・DV） 第4回 子どもと家族のための福祉②（少年非行） 第5回 子どもと家族のための福祉②（保育・ひとり親家庭） 第6回 児童福祉政策 「社会的養護」（児童福祉施設・里親） 第7回 貧困問題に関する福祉（ワーキングプアなど現代の貧困） 第8回 貧困問題に関する福祉政策 「生活保護制度」 第9回 障がい児・者のための福祉①（身体障害、知的障害） 第10回 障がい児・者のための福祉②（精神障害・発達障害） 第11回 障がい福祉政策 「障害者自立支援法」 第12回 高齢者のための福祉①（高齢化社会） 第13回 高齢者のための福祉②（高齢者虐待・介護問題） 第14回 高齢者福祉政策 「介護保険法」・「高齢者虐待防止法」 第15回 期末試験		
進め方	講義を中心に、視聴覚教材を多用して社会問題と社会福祉について学生同士でディスカッション・発表も行う。		
テキスト	使用しない。必要に応じ資料を配布する。板書もするので各自ノートやルーズリーフを用意しておくこと。	参考文献	①映画『誰も知らない』（主演：柳楽優弥）②映画『明日の記憶』（主演：渡辺謙）③映画『闇の子供たち』（主演：江口洋介・宮崎あおい・妻夫木聡）
評価方法	出席・授業態度:20% 中間レポート:30% 期末試験:50%		

生活福祉論		後期 2 単位	1・2年
生活福祉論		笹岡 眞弓（ささおか まゆみ）	
ねらい	生活福祉とは何か。生活の構成要素は何か。生活の福祉を阻害する要因について知識とともに、問題解決思考方法を学習する。これからの福祉を考えるに当たっては地域が重要である。生活の福祉を向上させるためにはソーシャルワークが必須であるが、その対象をミクロ、メゾ、マクロから捕えることが出来るように学習を深める。		
授業計画	【後期】 第1回 オリエンテーション 第2回 少子高齢社会・格差社会・生老病死と生活 第3回 福祉の理念；ノーマライゼーション 第4回 ソーシャルインクルージョン 第5回 現代の貧困と社会福祉 第6回 児童福祉の実際 第7回 障害をもった高齢者の実際 第8回 障害者福祉の実際（自立支援法） 第9回 虐待とは何か（児童・高齢者） 第10回 疾病と生活 第11回 異文化ソーシャルワーク 第12回 地域社会における生活 第13回 政策と生活の福祉 第14回 試験		
進め方	講義は出来るだけ現代の事例を用い、考察を深める。自分と関係のない「福祉」ではなく、社会生活を送る上で実感を持てるような解説をこころがける。学生からの質問時間、議論の時間を設ける。積極的な発言を歓迎する。		
テキスト	後期開始時までに指定する	参考文献	追って指定する
評価方法	試験:40% レポート:30% 出席:30%		

保育学		通年 4 単位	1・2年
子どもの発達と健やかな育ち		林 浩子（はやし ひろこ）	
ねらい	現代、子どもが育つ、育てる社会環境は複雑で様々な問題を抱えているといえる。本講義では、誕生から乳幼児期の子どもの心身の発達や生活を学ぶ。また、育児の側からの問題やそれに対する社会の対応について知りながら、子どもの健やかな育ちのために必要な育児実践について現代社会との関連から探っていく。		
授業計画	【前期】 第1回 オリエンテーション 第2回 子どもを取り巻く社会環境の変化と子育て（1） 第3回 子どもを取り巻く社会環境の変化と子育て（2） 第4回 子どもの発達（1）発達とは 第5回 子どもの発達（2）妊娠～出産 第6回 子どもの発達（3）新生時期 第7回 子どもの発達（4）乳児期 第8回 子どもの発達（5）幼児期 第9回 子どもの発達（6）学童期～思春期 第10回 子どもの生活（1）食事、排泄、睡眠 第11回 子どもの生活（2）疾病とその予防 第12回 子どもの生活（3）事故と安全 第13回 子育て支援の今 第14回 子育て支援の現場 第15回 試験	【後期】 第1回 保育と発達（1）人の発達の方向性「ともに生きる」 第2回 保育と発達（2）乳児の事実 第3回 保育と発達（3）発達観のいま、むかし① 第4回 保育と発達（2）発達観のいま、むかし② 第5回 保育と発達（3）子どもの育ちを見る視点 第6回 保育現場の今（1） 第7回 保育現場の今（2） 第8回 障害を抱える子どもと保育 第9回 家庭（ホーム）概念の変遷 第10回 ケアとは 第11回 ケアリングとは（1） 第12回 ケアリングとは（2） 第13回 共感的他者の役割とその意義 第14回 子育てと自分育て 第15回 試験	
進め方	講義を中心として進めるが、ビデオや具体的な事例を取り上げながら、実際の子どもの姿や子育ての様子を知りながら実践にいかしうる学びを目指す。また、1年間を通して絵本やわらべ歌を取り上げ、子どもの世界や発達と子育ての意義を探究していく。		
テキスト	特になし	参考文献	授業で適宜紹介する。
評価方法	筆記試験:60% 出席状況:30% 提出物:10%		

臨床心理学		通年 4 単位	1・2年
臨床心理学概論		小林 由美 (こばやし ゆみ)	
ねらい	臨床心理学の基本的な考え方を概観し、人を理解すること、人と関わること、人を支援することとはどういうことであるのかについて探求する。		
授業計画	【前期】 第1回 オリエンテーション、臨床心理学とは 第2回 メンタルヘルスの考え方、ストレス対処法 第3回 女性のライフサイクルとメンタルヘルス 第4回 思春期・青年期のメンタルヘルス 第5回 ソーシャル・サポートとメンタルヘルス 第6回 心理アセスメント 第7回 心理検査 第8回 精神障害の分類 第9回 心理臨床の実際1「乳幼児」 第10回 心理臨床の実際2「児童」 第11回 心理臨床の実際3「青年」 第12回 心理臨床の実際4「成人」 第13回 心理臨床の実際5「老人」 第14回 DVD視聴1「臨床心理学を理解する」 第15回 DVD視聴2「臨床心理学を理解する」	【後期】 第1回 基礎理論と心理療法/カウンセリング1 第2回 基礎理論と心理療法/カウンセリング2 第3回 基礎理論と心理療法/カウンセリング3 第4回 基礎理論と心理療法/カウンセリング4 第5回 精神障害と支援1 第6回 精神障害と支援2 第7回 精神障害と支援3 第8回 精神障害と支援4 第9回 発達段階と発達課題「乳児期から老年期まで」 第10回 思春期のこころの理解「自我同一性の確立」 第11回 心理療法と教育 第12回 自己理解と他者理解 第13回 DVD視聴3「臨床心理学を理解する」 第14回 DVD視聴4「臨床心理学を理解する」 第15回 1年の振り返りとまとめ	
進め方	講義が中心であるが、適宜、自分自身、および他者との関係性を理解する目的でワーク実習を行う。また教材として、臨床心理学に関連する映画を視聴する予定。それらを体験し活性化された感情や思考内容を言語化・表出するため、リアクションペーパーの提出を求める。		
テキスト	とくに定めなし。	参考文献	授業内で適宜紹介する。
評価方法	リアクションペーパー:50% 最終レポート:50%		

生活管理学		前期 2 単位	1・2年
「老い」を考える		原 葉子 (はら ようこ)	
ねらい	現代の日本に生きる私たちは、いかに高齢化する社会や人々の「老い」と向き合い、ともに生活していくのかを問われている。この講義では「高齢社会」「高齢者」「老い」をさまざまな角度から照射していくことによって、「高齢社会」を新たな目線で捉え直し、共生につなげることを目的とする。		
授業計画	【前期】 第1回 概要説明 「高齢社会」とは 第2回 日本社会の「老人観」(1) 古代から近代まで 第3回 日本社会の「老人観」(2) 現代に伝わる老いの文化 第4回 高齢者と家族 第5回 高齢社会と介護(1) 第6回 高齢社会と介護(2) 第7回 高齢社会と介護(3) 第8回 高齢者福祉のあり方 第9回 高齢期と格差 第10回 高齢者の社会的位置づけ(1) 第11回 高齢者の社会的位置づけ(2) 第12回 老いの経験(1) 第13回 老いの経験(2) 第14回 まとめ 第15回 試験		
進め方	授業は講義を中心とする。受講者には毎回リアクションペーパーの提出を求める。		
テキスト	なし	参考文献	各回のテーマに合わせ、講義の中で文献を紹介する。
評価方法	平常点:30% 期末試験:70%		

家庭経済学		後期 2 単位	1・2年
家庭に関わる経済現象		福井 由実 (ふくい ゆみ)	
ねらい	本授業では家庭に関わる経済現象を勉強する。私たちの身近な生活に直結する企業や商品を通して、生きた経済現象を、経済学上の専門用語を通さずに、受講者が理解できるような授業を展開したい。また、新聞・テレビ等で取り上げられる時事問題を最新の資料を提示しながら、経済学的知識を中心にしながらも多角的に検討していきたい。		
授業計画	【後期】 第1回 インTRODクシヨン 第2回 経済学における家庭及び家計の意味 第3回 家庭経済学の基本的フレームワーク 第4回 消費者行動理論の基礎 第5回 少子高齢化 第6回 環境問題 第7回 格差社会 第8回 非正規雇用 第9回 食品偽装 第10回 ディズニールランド 第11回 化粧品業界の問題点 第12回 百貨店とコンビニ 第13回 家電量販店 第14回 100円ショップ 第15回 清涼飲料水		
進め方	講義中心とする。毎回具体的な資料とレジュメを配る予定である。		
テキスト	適宜指示する。	参考文献	適宜指示する。
評価方法	定期試験:90% 小テスト:10%		

商品学・流通論 I		前期 2 単位	1・2年
消費者への価値創造と企業活動		伊藤 匡美 (いとう まさみ)	
ねらい	大ヒット商品や人気のお店が生まれるのはなぜか。その背後では、どんな企業がどのような活動を行っているのか。私達が日頃目にする現象やその仕組みについて、流通・マーケティングの見地から論理的に考えていくことにする。		
授業計画	【前期】 第1回 流通の位置づけと構造 第2回 消費者と流通①—消費構造とその変化— 第3回 消費者と流通②—店舗選択基準— 第4回 消費者と流通③—買物行動と商品分類— 第5回 流通の役割と卸売業・小売業 第6回 小売業の機能と構造 第7回 小売業の店舗形態と経営特性①—百貨店— 第8回 小売業の店舗形態と経営特性②—チェーンストアその1— 第9回 小売業の店舗形態と経営特性③—チェーンストアその2— 第10回 小売業の店舗形態と経営特性④—コンビニエンスストア— 第11回 マーケティングについて①—基本的な考え方— 第12回 マーケティングについて②—マーケティング環境分析— 第13回 マーケティングについて③—マーケティング・チャネル— 第14回 マーケティングについて④—マーケティング戦略— 第15回 試験		
進め方	講義を中心に行う。身近な事例を具体的に挙げながら、わかりやすく話を進めていくつもりである。		
テキスト	鈴木安昭『新・流通と商業』（有斐閣）	参考文献	講義の中で随時紹介する。
評価方法	前期末に行う定期試験:95% 小レポート:5%		

商品学・流通論Ⅱ		後期 2 単位	1・2年
流通の機能・役割とその変化		長原 紀子（ながはら のりこ）	
ねらい	製品やサービスは流通過程を経て“商品”になる。流通の機能・役割の基本と、変化する流通業の実態を学ぶ。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 授業ガイダンス 第2回 流通の社会的役割と仕組み 第3回 流通の機能 第4回 卸売業の役割と機能 第5回 小売業の役割と機能 第6回 小売業の形態と構造および変化 第7回 消費者と流通 第8回 ストアコンパリゾン〜オリエンテーションと実習〜 第9回 ウェブ時代の流通 第10回 ストアコンパリゾン発表会1 第11回 ストアコンパリゾン発表会2 第12回 流通とマーケティング 第13回 顧客心理と販売技術1 第14回 顧客心理と販売技術2 第15回 流通・商業に関する公共政策		
進め方	基本的には座学を中心に行うが、街で実際に店舗を見て比較・発見するストアコンパリゾンを組み入れる。身近で具体的な事例を数多くとりあげ、流通についての理解を深める。		
テキスト	新・流通と商業（有斐閣） お客がわかれば売り方がわかる（商業界）	参考文献	必要に応じて資料を紹介する。
評価方法	出席:50% レポート（2回提出）:50%		

簿記原理		通年 4 単位	1・2年
簿記の基本		福井 由実（ふくい ゆみ）	
ねらい	本授業では初めて簿記を学ぶ学生を対象とする。1年を通して簿記一巡の手続きを学び、複式簿記の基本的な概念を学ぶ。日商3級程度の内容を扱い、簿記のルールや用語について詳しく説明していく予定である。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 簿記の意義とその目的 第2回 資産の定義 第3回 負債の定義 第4回 資本の定義 第5回 資産・負債・資本の関係 第6回 貸借対照表 第7回 収益の定義 第8回 費用の定義 第9回 純損益の求め方 第10回 損益計算書 第11回 財産法と損益法 第12回 貸借対照表と損益計算書の作成 第13回 企業会計原則について 第14回 前期のまとめその1 第15回 前期のまとめその2	<p>【後期】</p> 第1回 簿記会計上の取引 第2回 取引の8要素 第3回 仕訳とは何か・仕訳のルール 第4回 仕訳練習その1 第5回 仕訳練習その2 第6回 試算表と精算表の作成 第7回 仕訳帳作成 第8回 総勘定元帳への転記 第9回 簿記上の現金・現金過不足 第10回 当座預金・小口現金 第11回 有価証券 第12回 手形 第13回 伝票 第14回 有価証券 第15回 固定資産	
進め方	講義中心であるが理解を深めるために授業中に練習問題を解く予定である。授業時には毎回レジュメを配布し、レジュメとテキストを併用して授業を進めていく。小テストも随時行う予定である。		
テキスト	新版 簿記の基本を学ぶ 八田進二 橋本尚 同文館出版	参考文献	適宜紹介する。
評価方法	定期試験:90% 小テスト:10%		

統計学		通年 4 単位	1年
統計的なものの見方・考え方とその実践		藤江 昌嗣 (ふじえ まさつぐ)	
ねらい	統計的なものの見方・考え方の特徴を基本的な用語を中心に解説していくとともに、具体的なデータを用いてその適用・実践方法の習得を目標にします。		
授業計画	【前期】 第1回 講義計画の説明 第2回 統計学小史 第3回 数の分類とデータの尺度構造(1) 第4回 数の分類とデータの尺度構造(2) 第5回 データのまとめ方(度数分布表やグラフの作成方法(1)) 第6回 データのまとめ方(度数分布表やグラフの作成方法(2)) 第7回 データの位置の測定 1) 最頻値, 中央値, 算術平均 第8回 データの位置の測定 2) 調和平均, 幾何平均, 分位数 第9回 散布度(範囲, 分散, 変異係数等) 第10回 標準化変量 z 第11回 変化率, 指数, 比率 第12回 寄与度・寄与率 第13回 関連係数 Q 第14回 相関係数 r 第15回 Test	【後期】 第1回 確率論と確率的なものの見方, 確率の公理(1) 第2回 確率論と確率的なものの見方, 確率の公理(2) 第3回 確率の計算演習 第4回 条件付確率とベイズの定理(1) 第5回 条件付確率とベイズの定理(2) 第6回 分布と確率分布(1) 二項分布・ポアソン分布 第7回 分布と確率分布(2) 正規分布 第8回 分布と確率分布(3) 正規分布 第9回 分布と確率分布(4) 正規分布 第10回 分布と確率分布(5) t 分布 第11回 分布と確率分布(6) χ^2 分布 第12回 区間推定と点推定 第13回 統計的検定(1) 第14回 統計的検定(2) 第15回 Test	
進め方	電卓(必携・統計機能付きのもの)を用いた計算演習も含めながら、初めて統計学を学ぶ人にも分かりやすく、解説を行っていく。		
テキスト	藤江著『エッセンシャル・ビジネス・スタティスティクス』梓出版社, 2003年	参考文献	授業時に随時指定する。
評価方法	試験 :40% 出席:30% 授業中の演習作業:30%		

生態学		通年 4 単位	1・2年
生態系と人間のくらし		高坂 宏一 (たかさか こういち)	
ねらい	わたしたち人間を含め、あらゆる生物とその環境が織り成すシステムである生態系の理解をもとに、さまざまな地域(インドネシアやボリビアなど)で多様な生活を営む人々の暮らしをみながら、さらにまた、ヒトの進化や適応あるいは人口の視点から、わたしたちの生存を支えている生態学的条件について考える。		
授業計画	【前期】 第1回 生態学序論 第2回 生態系とはどのようなものか 第3回 食物連鎖について考える 第4回 生態系におけるエネルギーの流れ 第5回 生物濃縮と健康問題 第6回 生態系と環境問題 第7回 生態系におけるヒトの特殊性 第8回 人類の起源をめぐって 第9回 ヒトとは 第10回 人類の進化: 猿人から現生人類へ 第11回 人類の全地球への移動・拡散 第12回 適応するということ 第13回 ささまざまな環境への適応 第14回 採集狩猟という生業と生態系 第15回 農耕の開始とその生態学的な意味	【後期】 第1回 世界の農耕文化 第2回 農耕と文明の発達 第3回 事例: インドネシアの農村 第4回 事例: アンデス高地の環境・人・暮らし 第5回 事例: アンデス高地のジャガイモ栽培とその加工 第6回 文化的適応ということ: ジャガイモ加工をめぐって 第7回 文化的適応ということ: 子育てをめぐって 第8回 個体群(人口)の生態学: 増大する個体群 第9回 個体群(人口)の生態学: 抑制される個体群 第10回 世界人口の推移: 過去、現在、将来 第11回 人口増加のメカニズム 第12回 人口増加とその影響(人口問題一その1) 第13回 少子化と人口の高齢化(人口問題一その2) 第14回 地球環境問題 第15回 まとめ	
進め方	インドネシアやボリビアなどでの現地調査の映像などを利用し、学生の理解度を確認しながら進める。		
テキスト	大塚柳太郎他『人類生態学』(東京大学出版会)	参考文献	授業時に適宜紹介する。
評価方法	試験:80% 平常点(小テスト等):20%		

住環境論		前期 2 単位	1・2年
日本住宅の歴史と文化		山田 岳晴（やまだ たけはる）	
ねらい	現在の和風住宅や和室に繋がる日本住宅の歴史を学ぶことによって、日本文化への理解を深め、住環境を構築する上での基礎知識を修得することを目的とする。最新の研究成果に基づいて講義するものであって、現在、日本文化の特徴とされている生活様式が生まれた歴史について見直す。		
授業計画	【前期】 第1回 日本建築の見方 第2回 日本住宅の特徴 第3回 竪穴式住居・高床式住居と神社本殿 第4回 寝殿造 第5回 寝殿造から書院造へ 第6回 書院造 第7回 城の御殿 第8回 茶室の特質 第9回 農家建築 第10回 町家建築 第11回 中世の庶民住居 第12回 台所・風呂・寝室の歴史 第13回 住宅の歴史の知識 第14回 住宅の文化の知識 第15回 即日レポート試験		
進め方	毎回、多くの図面などの講義資料を配付し、各回完結の講義形式での講義を行うことを基本とする。最終回にそれら講義した内容について問う、即日レポート試験を行う。		
テキスト	毎回、講義資料を配布するので、テキストは不要。 （最新の研究成果に基づく講義であるので、一般的	参考文献	特になし。
評価方法	即日レポート試験:90% 授業姿勢:10%		

生活環境論		後期 2 単位	1・2年
ライフスタイルの再評価のために		梅澤 香代子（うめざわ かよこ）	
ねらい	私たちの日々の生活は生活している地域内に閉じているのではなく、地球規模の社会、経済の動き、自然の変化などと密接にかかわっている。本講では主として、豊かな生活によってもたらされる現代の環境問題、水質汚濁、廃棄物、エネルギー、資源問題などを中心に取り上げる。		
授業計画	【後期】 第1回 豊かさとはどういうことか 第2回 環境問題と環境科学 第3回 大気汚染（1） 第4回 大気汚染（2） 第5回 上水道と生活排水処理 第6回 水質汚濁と土壌汚染 第7回 有害物質の基準 第8回 廃棄物とリサイクル（1） 第9回 廃棄物とリサイクル（2） 第10回 地球温暖化（1） 第11回 地球温暖化（2） 第12回 低炭素社会 第13回 中国の環境と資源 第14回 環境の評価 第15回 試験ないしレポート発表		
進め方	毎回小テストを課し、出席と平常点とする。また、欠席が5回以上のときは試験は受けられません。		
テキスト		参考文献	中西準子著『水の環境戦略』（岩波書店）環境庁編『環境白書』（大蔵省印刷局）環境科学 日本化学会編（東京化学同人）その他
評価方法	平常点:40% レポートないし試験:60%		

環境科学		通年 4 単位	1・2年
環境問題の科学的理解		廣田 道夫 (ひろた みちお)	
ねらい	人間と環境が調和した社会を構築するためには、種々の環境問題に広い視野を持って対応することが必要です。環境問題を科学的に的確に理解し、判断し、対応できるように柔軟な考え方を育て、健全な環境保全の意識を養うことを目的とします。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 講義内容の概略説明 第2回 環境とは何か、人口と食糧 第3回 資源・エネルギーと環境 第4回 自然の浄化作用と環境汚染物質 第5回 自然の浄化作用と環境汚染物質 第6回 我が国の環境の概要、大気環境 第7回 我が国の大気環境 第8回 我が国の水の環境 第9回 我が国の水の環境 第10回 我が国の土壌環境 第11回 化学物質の健康影響・安全管理 第12回 廃棄物とリサイクル 第13回 廃棄物とリサイクル 第14回 監視体制 第15回 試験	<p>【後期】</p> 第1回 地球環境問題の概要 第2回 地球温暖化・二酸化炭素問題 第3回 地球温暖化・二酸化炭素問題 第4回 オゾン層破壊 第5回 オゾン層破壊 第6回 酸性雨 第7回 酸性雨 第8回 森林の保護 第9回 砂漠化、生物多様性 第10回 放射能汚染 第11回 国際的な観測網 第12回 国際的な観測網 第13回 環境を守る生き方 第14回 環境と国際関係・国際協力 第15回 試験	
進め方	講義を中心に進めるが、テーマによっては受講生が調査し、発表、議論する時間を設ける。		
テキスト	適宜資料を配布する。	参考文献	日本化学会編「暮らしと環境科学」（東京化学同人）。その他適宜紹介する。
評価方法	出席:40% 試験:60%		

生活材料学		後期 2 単位	1・2年
繊維材料とプラスチック		山田 裕子 (やまだ ひろこ)	
ねらい	衣服や生活用具など私たちが日常生活の中で使用している“物”は、様々な素材で構成されているが、プラスチックや繊維を用いている物は多い。本講では、それら製品を使用する立場で、素材の特性や成り立ちを学ぶ。特性を知ってこそ、上手に生活の中で使いこなせるであろう。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 プラスチックとは何か・・・意味・特徴・歴史 第2回 プラスチックの種類 第3回 熱硬化性プラスチックと熱可塑性プラスチック 第4回 汎用プラスチックとエンジニアリングプラスチック 第5回 身近なプラスチック 第6回 身近なプラスチック 第7回 プラスチック製品の作られ方 第8回 包装材料としてのプラスチック 第9回 使用済みプラスチックの廃棄とリサイクル 第10回 セラミックスとは 第11回 精密セラミックス製造は日本のお家芸 第12回 繊維の話・・・繊維とプラスチック 第13回 天然繊維と化学繊維、合成繊維 第14回 多様な特性を持つ最近の繊維 第15回 試験		
進め方	講義形式で進める。		
テキスト	テキストは指定しない。必要に応じプリントを配布する。	参考文献	林雅子監修・酒井豊子ほか著『被服材料学』（実教出版社）、阿部幸子他著『衣生活論』（同文書院）、葛良忠彦・平和男著『新しい包装材料』（共立出版）
評価方法	定期試験:80% 出席点:20%		

基礎化学		後期 2 単位	1・2年
化学の基礎知識の理解		廣田 道夫 (ひろた みちお)	
ねらい	身近な衣食住に係わる物質、生命、環境、地球などを化学の目で見たり、感じたり、判断することが出来るよう基礎的な知識を身につける。		
授業計画	【後期】 第1回 物質を見る眼としての化学 第2回 原子、分子 第3回 元素の周期表 第4回 原子の電子構造 第5回 化学結合（イオン結合） 第6回 化学結合（共有結合） 第7回 物質の三態・気体 第8回 溶液・コロイド 第9回 結晶 第10回 化学反応 第11回 化学平衡 第12回 有機化合物 第13回 有機化合物 第14回 高分子化合物、生命と化学 第15回 試験		
進め方	講義を中心とする。小テストを実施することもありうる。		
テキスト	必要に応じてプリントを配布する。	参考文献	関連する参考書等を適宜紹介する。
評価方法	出席:50% 試験:50%		

基礎食品学		前期 2 単位	1・2年
食品材料と食品栄養学		谷本 信也 (たにもと しんや)	
ねらい	食品を、化学的に、また、栄養、衛生、物理面でみて、料理素材として選べるよう、加工食品も選べるようになることを目的とする。植物性と動物性食材を個別に扱う。その組成を説明することで特性を理解し同時に食材の栄養学的知識を身につけ、流通加工の間での組成組織の物理化学変化を学ぶ中で、商品の見分、保存、栄養学的に見た加工調理法も		
授業計画	【前期】 第1回 食品の構成成分1 炭素水素酸素窒素等の原子と分子 水 第2回 食品の構成成分2 炭水化物 脂質 第3回 食品の構成成分3 脂質 第4回 食品の構成成分4 タンパク質 第5回 食品の構成成分5 繊維など 第6回 植物性食材 野菜1 第7回 植物性食材 野菜2 第8回 植物性食材 野菜3 第9回 植物性食材 果物 第10回 植物性食材 芋、豆、海草、きのこなど 第11回 動物性食材 畜肉 第12回 動物性食材 乳 卵 第13回 動物性食材 海産物 第14回 食品流通と表示 法律と政策 第15回 試験		
進め方	講義中心の授業です。教科書を必要としますが、参考にするだけですし、授業と同じ内容の本で一冊にまとまったものはありません。関連資料はそのつど示しますが、積極的に授業に出席していないとおかれることとなります。		
テキスト	アクセス生体機能成分 (技報堂出版)	参考文献	図書館の食品学関係や調理関係の書棚と加工食品、農産物、畜産物、水産物の棚に詳しい本がある。参考図書リストも参考に。
評価方法	出席:30% 期末試験:70%		

応用食品学		後期 2 単位	1・2年
食品の嗜好成分・物性		黒田 圭一（くろだ けいいち）	
ねらい	食品に含まれる栄養素以外の成分である味、色、においなどの嗜好成分と食感について学び、食品の特性を理解することを目的とする。また安全で健康を維持できる食生活を営むための食の在り方考えることも目的とする。		
授業計画	【後期】 第1回 食品の構成成分と機能 第2回 食品の味、呈味成分①（甘味と甘味料について） 第3回 食品の味、呈味成分②（酸味、塩味、苦味について） 第4回 食品の味、呈味成分③（うま味、辛味、渋味について） 第5回 食品の色、色素成分 第6回 食品の匂い、匂い成分 第7回 食品の物性①（デンプンとデンプン食品、パン） 第8回 食品の物性②（チーズ、ヨーグルトの乳製品） 第9回 食品の物性③（豆腐、かまぼこ、その他） 第10回 食品の物性④（脂質の乳化） 第11回 食品の毒性物質 第12回 食品の保存 第13回 加工食品 第14回 特別用途食品 第15回 まとめ		
進め方	講義が中心となる授業です。基礎となる分野も復習しながら進めていきます。		
テキスト	授業時に提示します。	参考文献	図書館の食品学関係の書棚と加工食品、農産物、畜産物、水産物の棚に本があります。食品学辞典。
評価方法	試験:70% 出席及び積極的な態度:20% レポート:10%		

基礎栄養学		後期 2 単位	1・2年
栄養素の役割と食事摂取基準		石井 孝彦（いしい たかひこ）	
ねらい	生物の生存と健康は、外部環境が変化しても生物がその内部環境をほぼ恒常の状態に維持できる能力に依存しているといわれる。本講義は外部環境のひとつである食事を理解するため、各栄養素の体内における代謝と機能及び主に思春期(中学生)及び成人女性のための食事摂取基準と栄養調査による問題点の指摘と改善方法を学ぶ。		
授業計画	【後期】 第1回 栄養・栄養素とは 第2回 糖質の化学・消化 第3回 糖質の代謝1 第4回 糖質の代謝2・食物繊維 第5回 糖代謝の理解のために 第6回 脂質の化学・消化 第7回 脂質の代謝 第8回 蛋白質の化学・消化・アミノ酸の化学 第9回 蛋白質・アミノ酸の代謝 第10回 エネルギー代謝 第11回 臓器別エネルギー代謝 第12回 カルシウムの機能 第13回 鉄及びその他のミネラルの機能 第14回 水溶性ビタミンの機能 第15回 脂溶性ビタミンの機能		
進め方	講義が中心となるが、ビデオで理解を助ける。		
テキスト	吉田勉ほか著『新基礎栄養学第7版』（医歯薬出版）	参考文献	図書館カウンターにある2010年度指定参考図書目録を参照のこと。
評価方法	試験:85% 出席点:15%		

実践栄養学		後期 2 単位	1・2年
栄養学を实践するために		石井 孝彦 (いしい たかひこ)	
ねらい	本講義の目的は若い女性が陥りやすい栄養に関係する病気を取り上げ、基礎栄養学（食事摂取基準）や栄養生理学の栄養知識を实践するための方法を理解することである。		
授業計画	【後期】 第1回 身体組成あれこれ 第2回 食事摂取基準 第3回 ダイエットの失敗 第4回 皮膚・毛髪と栄養 第5回 神経性食欲不振 第6回 便秘・下痢 第7回 脂肪肝・高脂血症 第8回 貧血・生理不順 第9回 低血圧・冷え 第10回 浮腫・むくみ 第11回 ダイエットと和食 第12回 ダイエット食とは 第13回 骨粗鬆症予防 第14回 食物アレルギー 第15回 食生活アンケート及び討論		
進め方	講義が中心となるが、ビデオで理解を助ける。		
テキスト	特に定めず、配布資料を活用する。	参考文献	図書館カウンターにある2010年度指定参考図書目録を参照のこと。
評価方法	レポート:85% 出席点:15%		

栄養生理学		前期 2 単位	1・2年
食事と臓器・組織の応答		石井 孝彦 (いしい たかひこ)	
ねらい	外部環境のひとつである食事の変化に対して、内部環境を維持するために、生体がどのように応答するかを、消化管、肝臓、脂肪組織、骨を中心に栄養生理学を学ぶ。		
授業計画	【前期】 第1回 スパイラルエイジング 第2回 自律神経系 第3回 内分泌系 第4回 脳・食欲 第5回 歯・唾液 第6回 消化管—消化吸収・防御1 第7回 肝臓・肝臓病 第8回 脂肪組織と肥満 第9回 ダイエットということ 第10回 筋肉と骨格 第11回 身体（骨、筋肉）作りの栄養 第12回 心臓、血液—動脈硬化・脳血管疾患 第13回 腎臓、尿 第14回 免疫—防御2 第15回 食事と癌（予防）		
進め方	講義が中心となるが、ビデオで理解を助ける。		
テキスト	特に定めず、配布資料を活用する。	参考文献	図書館カウンターにある2010年度指定参考図書目録を参照のこと。
評価方法	試験:85% 出席点:15%		

調理文化		前期 2 単位	1・2年
人は何を食べてきたのか		高橋 恭子 (たかはし きょうこ)	
ねらい	異なった自然環境や社会環境のなかで暮らしてきた人は、それぞれの環境下で何を食糧として選択してきたのか、また、獲得した食糧に手を加えてどのような食べ物を作りあげ、特徴ある食生活を営んできたのかを考える。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 調理文化の概要 第2回 調理とおいしさ 第3回 米の調理性と米料理の地域性 第4回 小麦の調理性と小麦粉料理（パン様食品）の地域性 第5回 小麦の調理性と小麦粉料理（麺様食品）の地域性 第6回 いもの調理性といも料理の地域性 第7回 魚と肉の調理性 第8回 魚料理と肉料理の比較 第9回 乳加工品の地域性 第10回 豆加工品の地域性 第11回 発酵食品の地域性 第12回 調味料の地域性 第13回 香辛料の地域性 第14回 食具の地域性 第15回 まとめ・筆記試験		
進め方	日常あるいはビジネスとして食の場を整えるための（フードコーディネーター）基礎知識にもなるよう講義を進める。講義中心であるが、ビデオや写真などで理解を助ける。		
テキスト	テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配布する。	参考文献	石毛直道編『世界の食事文化』ドメス出版、吉川誠次編『食文化論』建帛社、橋本慶子・下村道子・島田淳子編『調理と文化』朝倉書店
評価方法	試験:60% 提出物:20% 出席:20%		

調理学実習		通年 2 単位	1・2年
調理学の基礎的事項を習得する。食品の種類と特徴、調理による変化を科学的に理解するとともに、基本的な調理の手法を実践的に学び、豊かで健康的な食生活の実践力を養う。		田中 京子 (たなか きょうこ)	
ねらい	調理の意義・役割を理解し、実践に必要な理論や手法を科学的に学ぶ。様々な食品の成分と特性を理解し、適切な調理法や調理器具を用いて調理する。日本料理・西洋料理・中国料理等の様式別に、食文化及び食品と調理法の特徴を理解する。自主研究や自由献立弁当作成により実践力を養うほか、行事食の実習を通して食文化伝承の重要性を考える。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 調理学実習の基本事項を理解する。 第2回 調理実習の基本事項について理論と技術を習得する。 第3回 日本料理の基礎事項について理論と技術を習得する。 第4回 動物性食品の調理学実験・実習。 第5回 日本料理の基礎事項について理論と技術を習得する。 第6回 日本料理の基礎事項について理論と技術を習得する。 第7回 日本料理の基礎事項について理論と技術を習得する。 第8回 西洋料理の基礎事項について理論と技術を習得する。 第9回 調理機器（主に電子レンジ）についての調理学実験実習。 第10回 西洋料理の基礎事項について理論と技術を習得する。 第11回 西洋料理の基礎事項について理論と技術を習得する。 第12回 西洋料理の基礎事項について理論と技術を習得する。 第13回 中国料理の基礎事項について理論と技術を習得する。 第14回 中国料理の基礎事項について理論と技術を習得する。 第15回 実習室の清掃（実習及び研究記録の提出）	<p>【後期】</p> 第1回 自由献立弁当作成について理解する。 第2回 西洋料理の基礎事項について理論と技術を習得する。 第3回 西洋料理の基礎事項について理論と技術を習得する。 第4回 味に関する実験実習と自由献立弁当作成の準備。 第5回 西洋料理の基礎事項について理論と技術を習得する。 第6回 日本料理の基礎事項について理論と技術を習得する。 第7回 植物性食品の調理学実験・実習。 第8回 中国料理の基礎事項について理論と技術を習得する。 第9回 中国料理の基礎事項について理論と技術を習得する。 第10回 西洋料理の基礎事項について理論と技術を習得する。 第11回 自由献立弁当 第12回 クリスマス料理 第13回 正月料理Ⅰ 第14回 正月料理Ⅱ 第15回 実習室の清掃（実習および研究記録の提出）	
進め方	調理学実習を中心に、一部講義や調理学実験を行う。実習と試食はグループで行う。マニキュア、つけ爪はとり、専用の清潔な実習着と三角巾を着用する。調理機器の片付けおよび清掃を行うほか、授業進行や設備・機器の管理も班で担当する。作業確認等のため、授業が昼休みに食い込む傾向がある。食材準備の都合上、授業内容が変更される場合がある。		
テキスト	テキストは使用しない。プリントを配布する。	参考文献	山崎清子・島田キミエ・渋川祥子・下村道子共編『新版 調理と理論』（同文書院）、『五訂増補食品成分表』（女子栄養大学）
評価方法	提出物:60% 授業態度:20% 出席点:20%		

衣裳文化		前期 2 単位	1・2年
「衣裳」の役割と文化史的展開		鈴木 すゞ江 (すずぎ すずえ)	
ねらい	ロココから20世紀までの衣裳に注目して、「衣裳」の果たす役割を、身体的・心理的・社会的側面から検討し、併せて文化史的展開を概観する。		
授業計画	【前期】 第1回 ロココ① アビ・ア・ラ・フランセーズ 第2回 ロココ② ローブ・ア・ラ・フランセーズ 第3回 フランス革命期① ローブ・ア・ラ・シュミーズ 第4回 フランス革命期② ユサルド型パンタロン 第5回 1820年代～1830年代 ロマンティシズム 第6回 1840年代 ネオ・ロココ 第7回 1850年代～1860年代 クリノリン ウォルト 第8回 1870年代～1880年代 バッスル 第9回 19世紀末～20世紀初頭 アールヌーボースタイル 第10回 1910年代 デザイナーへの称賛 第11回 1920年代 スカートの丈の変化 第12回 1930年代 フェミニン 第13回 1940年代以降 ジーンズ 第14回 まとめ 第15回 試験		
進め方	配布プリントを中心に講義を進める。図版資料・文献資料を詳細に検討する。		
テキスト	特に定めない。	参考文献	授業時に随時紹介する。
評価方法	出席:30% 試験:70%		

被服構成論		後期 2 単位	1・2年
被服の構造・性能の理解に基づいた、快適な被服環境の設計		植竹 桃子 (うえたけ ももこ)	
ねらい	人体の形態的要因と被服との関係を理解し、さらに、着用者の年齢層や身体的・社会的状況に適応した快適な被服環境の設計について学び、考える。また、既製衣料品についても目を向け、現代社会における適切かつ楽しい被服環境づくりを追求する。		
授業計画	【後期】 第1回 現代社会における被服の役割 第2回 被服行動の原則 第3回 被服の祖型、和服と洋服 第4回 人体の形態と計測法 第5回 人体の形態と衣服原型・衣服パターン① 第6回 人体の形態と衣服原型・衣服パターン② 第7回 被服の動作適合性 第8回 衣服圧の人体への影響・効果 第9回 乳幼児用被服に望まれる要件① 第10回 乳幼児用被服に望まれる要件② 第11回 ユニバーサルウェア 第12回 既製衣料品の企画・設計・生産 第13回 既製衣料品の流通・処分経路 第14回 既製衣料品のサイズ規格 第15回 まとめ		
進め方	ビデオ教材・実物教材の利用や、衣服模型の作成、着心地の簡易実験を交え、基本的知識の定着と問題意識の喚起を図りながら講義を進める。		
テキスト	松山容子編著『衣服製作の科学』（建帛社）	参考文献	
評価方法	出席:20% 定期試験:80%		

被服構成実習		通年 2 単位	1・2年
服作りと棒針編みの基礎		茨木 裕子 (いばらぎ ゆうこ)	
ねらい	身体と衣服との関係理解のため型紙製作、平面的な布による立体構成の方法、素材に応じた縫製技法等について、裏付スカート製作実習を通して学ぶ。棒針編みの基本技法を学び、課題及び作品を製作する。どちらも基本技法の範囲内でデザインの工夫を試みる。布やミシン、毛糸の扱い方を知り親しむことで、手作りの楽しさを体験して欲しい。		
授業計画	【前期】 第1回 年間実習の計画と説明 第2回 採寸、型紙作成 第3回 裁断 第4回 しるしつけ 第5回 仮縫い1 第6回 仮縫い2 第7回 試着 第8回 ミシン練習 第9回 裏スカート裁断 第10回 裏スカートしるしつけ 第11回 表スカート縫製1 第12回 表スカート縫製2 第13回 ファスナーつけ 第14回 ファスナー始末 第15回 ロックミシン始末	【後期】 第1回 裏スカート縫製 第2回 中とし 第3回 ベルトつけ 第4回 ベルト始末 第5回 カギホック仕上げ 第6回 棒針編み基礎1 第7回 棒針編み基礎2 第8回 棒針編み基礎3 第9回 棒針編み基礎4 第10回 自由作品製作1 第11回 自由作品製作2 第12回 自由作品製作3 第13回 自由作品製作4 第14回 自由作品製作5 第15回 実技テスト	
進め方	講義による指導で実習を進める。授業時間内における実習であるため、必要な教材及び裁縫道具を揃えて出席することが条件となる。製作予定表に沿って進捗を確認しながら作業を進め、提出期限を守ることが重視される。		
テキスト	実習に必要なテキストを配布する。	参考文献	必要な場合は随時紹介する。
評価方法	作品評価:70% 出席:15% 実技テスト:10% 提出日:5%		

生活文化論		後期 2 単位	1・2年
自然とともに生きる人々の暮らし		田中 英資 (たなか えいすけ)	
ねらい	人間の生活文化は民族や社会によって異なり、極めて多様である。また、生活の基盤である生業、衣食住に関わること、ライフスタイルなど、切り口も様々である。本講義は、農業や漁業、牧畜など自然とともに生きる人々の暮らしを中心に、人間の生活文化の多様性やその変容に対する理解を深めることを目的とする。		
授業計画	【後期】 第1回 イントロダクション 第2回 生活文化概論 第3回 狩猟・採集民の暮らし 第4回 牧畜民の暮らし 第5回 外国の農耕民の暮らし① 第6回 外国の農耕民の暮らし② 第7回 外国の農耕民の暮らし③ 第8回 日本の農耕民の暮らし 第9回 外国の漁労民の暮らし 第10回 日本の漁労民の暮らし 第11回 生活の場としての共同体 第12回 村落社会の変容① 第13回 村落社会の変容② 第14回 村落社会の変容③ 第15回 まとめ		
進め方	基本的には講義形式で授業を進める。ビデオや画像なども必要に応じて紹介したい。授業中にディスカッションの時間をとることも考えており、参加者の積極的な発言を期待する。		
テキスト	特に指定しない。配布資料を適宜準備する。	参考文献	適宜紹介する。
評価方法	出席点:40% レポート:60%		

国際生活文化		前期 2 単位	1・2年
国境を越えて移動する人々・モノ		田中 英資 (たなか えいすけ)	
ねらい	グローバル化が進行するなかで、国境を越えて移動する人々やモノに関わるトピックを取り上げて、現代に生きる我々の生活文化の諸相を見つめ直す。		
授業計画	【前期】 第1回 インTRODクッション 第2回 グローバル化と私たちの生活 第3回 成長する観光産業 第4回 最近の観光のトレンド① 第5回 最近の観光のトレンド② 第6回 留学する日本人 第7回 日本人の国際結婚 第8回 越境する人々のネットワーク① 第9回 越境する人々のネットワーク② 第10回 越境の手段としての航空 第11回 寿司のグローバル化 第12回 スローフード 第13回 国際問題としての食糧 第14回 食の安全性とグローバルスタンダード 第15回 まとめ		
進め方	基本的には講義形式で授業を進める。必要に応じて、授業中にディスカッションの時間をとることも考えており、参加者の積極的な発言を期待する。		
テキスト	特に指定しない。適宜配布資料を用意する。	参考文献	山下晋司「観光人類学の挑戦-『新しい地球』の生き方」(講談社選書メチエ)等。その他授業中に適宜紹介する。
評価方法	出席点:40% レポート:60%		

デザイン文化論		後期 2 単位	1・2年
デザイン史に学ぶ		趙 慶姫 (ちょう きょんひ)	
ねらい	価値観が多様化し、指標を見失いがちな現代において、デザインを通じて真の豊かさを考えることを主眼とする。時代や社会の諸相を反映させながら展開してきたインダストリアルデザインの歴史を、主に近代以降において振り返り、今の社会が直面している問題、次代に向けた方向性についても考えてゆきたい。		
授業計画	【後期】 第1回 ガイダンス、産業革命前後/講師の作品紹介 第2回 ウィリアム・モリスとアーツ・アンド・クラフツ運動 第3回 アール・ヌーヴォー、グラスゴー派 第4回 ウィーン工房、19世紀のメディア環境 第5回 ドイツ工作連盟、バウハウス 第6回 バウハウス 第7回 デ・ステイル、ロシア・アヴアングャルド、アール・デコ 第8回 ル・コルビュジェ、アメリカの近代化 第9回 アメリカのインダストリアルデザイン 第10回 アメリカ・ミッドセンチュリー 第11回 グッドデザイン運動、イタリアのデザイン 第12回 北欧のデザイン 第13回 日本のデザイン1 (明治時代~第2次世界大戦前) 第14回 日本のデザイン2 (第2次世界大戦後) 第15回 まとめ、資料ビデオ鑑賞		
進め方	知識の吸収のみでなく「感じること」「見る目を養うこと」を目的に、時代・地域ごとと特徴のある優れた作品の写真資料を多く用いる。またデザインを職業としてきた講師自身の考えを述べながら、歴史をなぞることにとどまらない生きた講義ができればと思っている。アンケート等により、受講者とコミュニケーションをはかりながら授業を進めた。		
テキスト	特に定めず、講義内容をまとめた配布資料を用いる。	参考文献	授業中に適宜紹介する。また関係する展覧会などの情報も紹介する。
評価方法	平常点:50% 試験:50%		

色彩形態論		前期 2 単位	1・2年
色彩と形態の基本的な性質		奥村 健一（おくむら けんいち）	
ねらい	身近にある色彩や形態に対して、私達がいかに広範囲にしかもきめ細かく対応しているかを把握することと、色彩や形態の美しさがどのように生じているかを観て考えていくことが中心になる。		
授業計画	<p>【前期】</p> <p>第1回 ガイダンス：日常観察の勧め</p> <p>第2回 背景色によって色の見え方が異なる</p> <p>第3回 透過光と反射光について</p> <p>第4回 人が識別できる色の範囲・表色系の紹介</p> <p>第5回 同系色を組み合わせてわかる目の働き</p> <p>第6回 グラデーションの制作</p> <p>第7回 色彩・形態の事例の観察</p> <p>第8回 作図：単純な図形を厳密に描く</p> <p>第9回 作図の続き：描いた図形の解説、作図の効用</p> <p>第10回 色彩の混色・形態の微調整の方法</p> <p>第11回 色彩や形態の対比と同化</p> <p>第12回 スライド：バザレリの作品他</p> <p>第13回 色彩調和論の紹介</p> <p>第14回 スライド：色彩計画他</p> <p>第15回 遠近感・形態の相互作用</p>		
進め方	講義が中心。その他に配色のサンプルを作ったり、図形を描くことによって色彩と形態の性質を確かめてもらう。		
テキスト	『デザインの色彩』（日本色研発行）と『トータルカラー』（配色用の色紙）	参考文献	
評価方法	出席:30% 課題提出:10% 期末レポート:60%		

美術	通年 2 単位	1・2年
平面と立体の表現を楽しむ	本田 悦久 (ほんだ よしひさ)	
<p>ねらい</p> <p>今日の美術の世界は表現・素材共に多様化しているが、基礎的な技法の習得はより不可欠のものとなり、重要性を増していると考えられる。自分の感じたこと・考えたことをのびのびと表現できるように、さまざまな角度から取り組ませたい。また新しい素材からも、新鮮な感覚を触発されるものを見つけだし、自分のものとして表現することを学ばせたい。</p> <p>授業計画</p> <p>前期</p> <p>第1回 ガイダンス 「美術の誕生」 「平面と立体」の表現の違い。絵画、彫刻、デザイン、工芸の接点</p> <p>第2回 デッサンとは～鉛筆デッサンを描く・「ものを持つ手」</p> <p>第3回 鉛筆デッサンを描く・・・「ものを持つ手」</p> <p>第4回 パステルと色鉛筆で描く・・・「野菜と果物の静物画」</p> <p>第5回 パステルと色鉛筆で描く・・・「野菜と果物の静物画」</p> <p>第6回 パステルと色鉛筆で描く・・・「野菜と果物の静物画」</p> <p>第7回 パステルと色鉛筆で描く・・・「野菜と果物の静物画」</p> <p>第8回 パステルと色鉛筆で描く・・・「野菜と果物の静物画」</p> <p>第9回 パウル・クラーの色彩研究・・・「檜（ひのき）棒でリーフを作る」</p> <p>第10回 パウル・クラーの色彩研究・・・「檜（ひのき）棒でリーフを作る」</p> <p>第11回 パウル・クラーの色彩研究・・・「檜（ひのき）棒でリーフを作る」</p> <p>第12回 パウル・クラーの色彩研究・・・「檜（ひのき）棒でリーフを作る」</p> <p>第13回 パウル・クラーの色彩研究・・・「檜（ひのき）棒でリーフを作る」</p> <p>第14回 パウル・クラーの色彩研究・・・「檜（ひのき）棒でリーフを作る」</p> <p>第15回 パウル・クラーの色彩研究・・・「檜（ひのき）棒でリーフを作る」</p> <p>後期</p> <p>第1 回 日本画の材料と技法</p> <p>第2 回 下図（色紙）から本図（扇面）へ転写する</p> <p>第3 回 顔彩と岩絵具の使い方</p> <p>第4 回 着彩</p> <p>第5 回 着彩</p> <p>第6 回 着彩</p> <p>第7 回 着彩</p> <p>第8 回 アクリル絵具と新しい素材で自由に表現する（テーマ「虹」）</p> <p>第9 回 アクリル絵具と新しい素材で自由に表現する（テーマ「虹」）</p> <p>第10回 アクリル絵具と新しい素材で自由に表現する（テーマ「虹」）</p> <p>第11回 アクリル絵具と新しい素材で自由に表現する（テーマ「虹」）</p> <p>第12回 アクリル絵具と新しい素材で自由に表現する（テーマ「虹」）</p> <p>第13回 アクリル絵具と新しい素材で自由に表現する（テーマ「虹」）</p> <p>第14回 アクリル絵具と新しい素材で自由に表現する（テーマ「虹」）</p> <p>第15回 アクリル絵具と新しい素材で自由に表現する（テーマ「虹」）</p> <p>進め方</p> <p>実技中心となるが、作例や画集等で理解を深める。</p> <p>テキスト</p> <p>授業中に随時画集等を活用する。</p> <p>参考文献</p> <p>図書館にある画集等を参考に。</p> <p>評価方法</p> <p>提出作品:80% 課題:10% 下描き等:5% 授業への積極度:5%</p>		

工芸		通年 2 単位	1・2年
染織（織り）		原田 ロクゴー（はらだ ろくごー）	
ねらい	繊維から布ができあがるまでの工程を実習することで、布やそれを作るまでに用いた道具の意味・必然性を考えてもらいたい。人が生き抜くための知恵が〈技術＝テクノロジー〉だとしたら、その原点ともいえる〈織り〉の技術を体験することで、身の回りにあるものの存在理由や構造の必然性を考えるきっかけになれば良いと考えている。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 フェルト1 第2回 フェルト2 第3回 綴織1 枠機拵え 第4回 綴織2 水平線による色変換 第5回 綴織3 垂直線による色変換 第6回 綴織4 垂直線による色変換 第7回 綴織5 斜線・曲線による色変換 第8回 綴織6 ノッティング・ループ 第9回 綴織7 ノッティング・ループ 第10回 調整日（各自の進度にあわせ調整） 第11回 高機織1 ろくろ式高機で織る 第12回 高機織2 ろくろ式高機で織る 第13回 高機織3 ろくろ式高機で織る 第14回 高機織4 ろくろ式高機で織る 第15回 調整日（各自の進度に合わせ調整）	<p>【後期】</p> 第1回 機（はた）と組織 第2回 組織図 第3回 組織図 第4回 整経・機仕掛け [これより2人一組A・B] 第5回 機仕掛け（綜通し） 第6回 機仕掛け（箆通し） 第7回 試織 第8回 A:高機織1 B:綴織1 第9回 A:高機織2 B:綴織2 第10回 A:高機織3 B:綴織3 第11回 調整日（各自の進度に合わせ調整） 第12回 A:綴織1 B:高機織1 第13回 A:綴織2 B:高機織2 第14回 A:綴織3 B:高機織3 第15回 調整日（各自の進度に合わせ調整）	
進め方	実習を中心とする授業である。[綴織…タペストリー・ウィーヴィング]と[高機織り]という2つの技法を用いて制作する。高機は2人で1機を使用する。		
テキスト	必要に応じてハンドアウトを配布する。	参考文献	小笠原小枝著『染と織の鑑賞基礎知識』（至文堂） 岸田幸吉著『ハンド・ウィーヴィング』（美術出版社）
評価方法	平常点:50% レポート・提出作品:50%		

生活用具論		後期 2 単位	1・2年
道具と人のかかわり		奥村 健一（おくむら けんいち）	
ねらい	道具とそれを使う人を観察し、道具の可能性や問題点について、また、人が道具を利用して得られることについて考えていく。道具と人の多様なかかわり方、厳密な使い方、あるいはあいまいな扱いに注意深く目を向けることによって、日常生活、あるいは自分自身をとらえなおしていただきたい。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 ガイダンス：人と道具の関係 第2回 道具を使う目標と、使った影響の考察 第3回 最近の道具について状況や問題点の紹介 第4回 動物と人間を比べてみる 第5回 なぜたくさんの道具が必要なのか 第6回 スライド：建造物や道具の構造と形 第7回 意識される「むだ」とされない「むだ」 第8回 インダストリアルデザイン 第9回 安全への配慮・危険回避 第10回 形と空間の使い方 第11回 道具へのこだわりの事例 第12回 システムと手続きの事例 第13回 自動化の段階 第14回 スライド：デザインの寿命 第15回 試験		
進め方	題材が1回ごとには完結せず、他の題材と関連することが多い。一つの事柄に対して複数の方針を比較する場合もあり、内容を少しずつ重複しながら、板書と話によって考慮点を示していく。わかりにくい点やご意見はその都度メモでお知らせをいただきたい。		
テキスト	特になし。	参考文献	
評価方法	出席:10% レポート:40% 定期試験:50%		

人間工学		通年 4 単位	1・2年
身体・心理特性にあった製品と生活環境づくりなどについて学びます。		永田 久雄（ながた ひさお）	
ねらい	デザイナー、エンジニアのためだけでなく、生活する人々のための「人間工学」を目指します。生活者の安全を最優先とした上で、QOL（生活の質）の向上のための製品、生活環境づくりなどについて幅広く学んでゆきます。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 人間工学の講義を通して伝えたいこと 第2回 骨格・関節・筋肉の仕組み 第3回 見る仕組み 第4回 聞く仕組み 第5回 体温調節系の仕組み (小テスト) 第6回 姿勢・人体寸法と姿勢 第7回 脳の仕組み ― 感覚、知覚、認識そして感情 第8回 作業とボデーメカニクス 第9回 Usabilityと製品・生活環境 第10回 Accessibilityと製品・生活環境 (小テスト) 第11回 Mobilityと製品と生活環境 第12回 Human Errorと製品・生活環境 第13回 Human-Machine Interface のデザイン 第14回 ユニバーサルデザイン (アンケート・試験の説明) 第15回 前期試験	<p>【後期】</p> 第1回 製品と生活環境づくりなどの進め方 第2回 歩行移動環境と転び 第3回 転び予防のための対策 第4回 履物を選ぶ 第5回 住宅・住処のデザイン (小テスト) 第6回 育児への応用 第7回 姿勢、体型、動きの変化の理解 第8回 介護・看護Careのデザイン 第9回 福祉機器のデザイン 第10回 みやすさとサインのデザイン (小テスト) 第11回 枕とベッドのデザイン 第12回 情報とUbiquitous社会 第13回 感情の理解と円滑なコミュニケーションの進め方 第14回 製品開発の実際 (アンケート・試験の説明) 第15回 後期試験	
進め方	配布テキストと、適宜、教科書を使用します。課題、小テスト、試験で評価します。また、理解度に応じて、シラバスの内容は修正、変更することがあります。		
テキスト	永田久雄『「転び」事故の予防科学』（労働調査会）、配布テキスト。	参考文献	特に無し
評価方法	小テスト:20% 課題:20% 試験:60%		

基礎生活情報処理		前期 2 単位	1・2年
コンピュータ・リテラシー		宮田 雅智（みやた まさのり）	
ねらい	コンピュータと通信技術の進歩は私達の生活に大きな影響を与えている。本講座は、講義とパーソナル・コンピュータを使ったの実習を通して、情報処理の基礎的な知識と技術を習得するとともに、科学技術の進歩には必ずつきまとう「光と影」についての理解を目的とする。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 ガイダンス、利用者登録等実習環境準備 第2回 講義：コンピュータの基礎 第3回 講義：情報のデジタル化 第4回 コンピュータの基本操作、文字入力の基本、文章の編集 第5回 ワープロ（1）編集、文字飾り等 第6回 ワープロ（2）課題演習 第7回 ワープロ（3）課題演習 第8回 インターネット概説、メールの送受信 第9回 ワープロ（4）罫線処理、課題演習 第10回 ワープロ（5）画像処理 第11回 ワープロ（6）図形処理 第12回 パワーポイント（1）スライド作成の基礎 第13回 パワーポイント（2）課題演習 第14回 パワーポイント（3）課題演習 第15回 まとめの課題		
進め方	コンピュータの基礎知識に関して講義した後実習に入る。実習では機能及び使い方の解説をしながら実際に操作して動作を確認する。課題を仕上げるにより、初歩的なIT技術を確実に身につける。		
テキスト	情報基礎講義（宮田雅智・大谷康晴・宮治裕著 青山学院購買会）	参考文献	無し
評価方法	課題演習:70% 出席:30%		

基礎生活情報処理		後期 2 単位	1・2年
コンピュータ・リテラシー		宮田 雅智 (みやた まさのり)	
ねらい	コンピュータと通信技術の進歩は私達の生活に大きな影響を与えている。本講座は、講義とパーソナル・コンピュータを使っての実習を通して、情報処理の基礎的な知識と技術を習得するとともに、科学技術の進歩には必ずつきまとう“光と影”についての理解を目的とする。		
授業計画	【後期】 第1回 ガイダンス、利用者登録等実習環境準備 第2回 講義：コンピュータの基礎 第3回 講義：情報のデジタル化 第4回 コンピュータの基本操作、文字入力の基本、文章の編集 第5回 ワープロ（1）編集、文字飾り等 第6回 ワープロ（2）課題演習 第7回 ワープロ（3）課題演習 第8回 インターネット概説、メールの送受信 第9回 ワープロ（4）罫線処理 第10回 ワープロ（5）画像処理 第11回 ワープロ（6）図形処理 第12回 パワーポイント（1）スライド作成の基礎 第13回 パワーポイント（2）課題演習 第14回 パワーポイント（3）課題演習 第15回 まとめの課題		
進め方	コンピュータの基礎知識に関して講義した後実習に入る。実習では機能及び使い方の解説をしながら実際に操作して動作を確認する。課題を仕上げることにより、初歩的なIT技術を確実に身につける。		
テキスト	情報基礎講義（宮田雅智・大谷康晴・宮治裕著 青山学院購買会）	参考文献	無し
評価方法	課題演習：70% 出席：30%		

応用生活情報処理		後期 2 単位	1・2年
表計算と統計／集計処理		宮田 雅智 (みやた まさのり)	
ねらい	実際にパソコンを利用しながら、表計算ソフトウェアの利用方法を習得すると同時に、統計の基礎概念を理解することを目的とします。		
授業計画	【後期】 第1回 ガイダンス、利用者登録等実習環境準備 第2回 Excelの基本操作、式と関数の基礎 第3回 表示形式と表の清書、グラフ作成、課題演習 第4回 課題演習 第5回 関数（1）IF、COUNTIF、課題演習 第6回 統計の基礎、課題演習 第7回 課題演習 第8回 関数（2）SUMIF、課題演習 第9回 関数（3）VLOOKUP、課題演習 第10回 クロス集計、課題演習 第11回 課題演習 第12回 データの加工（1） 第13回 課題演習 第14回 データの加工（2） 第15回 課題演習		
進め方	例題を使って実際に操作しながら説明し、課題を完成させることによりスキルを身につける。		
テキスト	情報基礎講義（宮田雅智・大谷康晴・宮治裕著 青山学院購買会）	参考文献	無し
評価方法	課題演習：70% 出席：30%		